Golden Days Abroad Golden Days Abroad

in Derbyshire

~ 病療部市 英国ダービーシャーを訪ねて ~

第7回ダービーシャー高校生派遣 帰国報告書 2024. 3















目 次

■はしがき	1p
■ダービーシャー派遣生徒・引率教員・受入家庭名簿	2p – 3p
■派遣日程・研修等の日程	4p
■滞在中の当番日記	5p – 12p
■ホストファミリー紹介・派遣を終えて	13p - 54p
■英語感想文	55p – 63p
■ダービーシャー高校生派遣事業資料	64p - 65p

はしがき

豊田市長 太田 稔彦

豊田市と英国ダービーシャー県・ダービー特別市・南ダービーシャー市は、1989年に トヨタ自動車株式会社の現地法人が南ダービーシャー市バーナストン地区に設立されたこと をきっかけに交流を開始し、1998年11月に姉妹都市提携を結びました。以来、市民を 主体とした様々な交流の歴史を重ね、相互理解と友情を育んでまいりました。

ダービーシャー高校生派遣事業は、バートン&サウスダービーシャーカレッジでの学校生活の体験、語学研修、現地学生との交流、ホームステイ等のプログラムを通して、豊田市と同校の友好及び相互理解を深め、国際感覚を持った人材を育成することを目的に、2014年度から開始しました。新型コロナウイルス感染症の世界的な蔓延による派遣中止を経て202年度から4年ぶりに派遣を再開し、この度、7回目となる派遣事業を無事実施することができました。市内高等学校及び高等専門学校に通う生徒15名が、現地で様々な人々に出会い学んだことや経験したこと、新たに抱いた夢や目標について、この報告書にまとめました。是非、多くの方々にご覧いただき、ダービーシャーの魅力や派遣生の成長、姉妹都市交流事業の意義を感じ取っていただければ幸いです。

派遣生の皆さんは、約1週間の滞在中、言葉の壁だけでなく文化や価値観の違いから様々な困難や不安に直面し、それらを乗り越えようと何度も試行錯誤したことと思います。皆さんの今後の人生において、その経験が活かされるときが必ず来ます。今回の派遣を通して見つけた新たな夢や目標に向かって進み、皆さんがそれぞれの進路で活躍することを楽しみにしています。今後も、豊田市とダービーシャーをつなぐかけがえのない存在であることを心に留め、両都市のさらなる友好関係の深化に向けた姉妹都市交流事業に積極的にご参加いただき、豊田市とダービーシャーの架け橋となってください。

おわりに、今回の高校生派遣事業にご理解とご協力を賜りましたご家族、学校関係者の方々をはじめ、派遣団に貴重な機会と経験を与えてくださったバートン&サウスダービーシャーカレッジ、ホストファミリー、ダービーシャーの皆様に心から感謝申し上げます。

派遣生徒・受入家庭名簿(全15名)

派追生促・安人	水灶口将	(<u>E134</u>)	
氏	<u>ጟ</u>	学校・学年	受入家庭
派遣生徒 志比田 悠翔 Haruto Shibita		豊田工業高等専門学校2年	The Henchcliffe Family
派遣生徒 原田 琴莉 Kotori Harada		豊田西高等学校 2年	The Mortimer Family
派遣生徒 杉浦 花菜 Kana Sugiura		豊田東高等学校 2年	The McGowan Family
派遣生徒 川﨑 亮 Ryo Kawasaki		衣台高等学校 2年	The Galland Family
派遣生徒 高橋 桃花 Momoka Takahashi		猿投農林高等学校 2年	The White Family
派遣生徒 齋藤 煌 Koh Saito		松平高等学校 1年	The Walton Family
派遣生徒 杉本 昂己 Koki Sugimoto		豊田工科高等学校 2年	The Walton Family
派遣生徒 川島 らい Rai Kawashima		足助高等学校 2年	The Kinnard Family
派遣生徒 山岡 紅留未 Kurumi Yamaoka		足助高等学校 1年	The White Family

派遣生徒・受入家庭名簿

派追生使・文人豕燵石溥				
氏	名	学校・学年	受入家庭	
派遣生徒 藤野 莉子 Riko Fujino		豊田北高等学校 2年	The Washbrook Family	
派遣生徒 保坂 早映 Sae Hosaka		豊田南高等学校 2年	The Phillips Family	
派遣生徒 濱中 美羽 Miu Hamanaka		豊田高等学校2年	The Phillips Family	
派遣生徒 曽我 隼太郎 Shuntaro Soga		豊野高等学校 1年	The Henchcliffe Family	
派遣生徒 平畑 レチシア Leticia Hirahata		杜若高等学校	The Rowe Family	
派遣生徒 西田 美玖莉 Mikuri Nishida		豊田大谷高等学校2年	The Rowe Family	

引率教員・受入家庭名簿

氏	氏 名 勤務先		受入家庭	
引率教員 澤田 直美 Naomi Sawada		豊田高等学校	The Tanner Family	
引率教員 伊東 真由美 Mayumi Ito	東真由美		The Obrien Family	

派遣日程

月日	時間	活動内容
	(現地時刻)	
3月16日(土)	07:35	JR 名古屋駅 発(新幹線、京急)
	12:35	羽田空港発(ルフトハンザ航空 717 便)
	19:30	フランクフルト空港 着
	22:30	フランクフルト空港 発(ルフトハンザ航空 958 便)
	23:10	バーミンガム空港 着
	23:40	バーミンガム空港 発(バス)
	0:30	ホテル 着
3月17日(日)	終日	ホストファミリーと過ごす
3月18日(月)	終日	オリエンテーション、英語講座、バートン市内散策
3月19日(火)	終日	英国料理(アフタヌーンティー)体験、日本食紹介
		カントリーハウス・コークアビー見学
3月20日(水)	終日	歴史地区バクストン見学
		英国トヨタ自動車スタッフとの交流
3月21日(木)	終日	クリエイティブ・メディア・ワークショップ①(トートバッグ制作)
		クリエイティブ・メディア・ワークショップ② (グラフィックデザイン)
		ドーン・ウォード最高経営責任者へ宛てた市長からのメッセージと市
		長・議長からの記念品をジョン・ビーティ校長へ託す
3月22日(金)	終日	コークアビー及びバクストン視察結果まとめ・発表
		カルチャーショー(日本文化紹介)、BSDC からの修了証授与
		ホストファミリー・BSDC 学生との交流・夕食会
3月23日(土)	終日	ロンドンへ移動
		ロンドン市内視察(バッキンガム宮殿、ビッグ・ベン、国会議事堂、ロ
		ンドンアイ、サウスバンク、キングスクロス駅等)
3月24日(日)	08:30	ヒースロー空港 発(ルフトハンザ航空 925 便)
	11:00	フランクフルト空港 着
	14:30	フランクフルト空港 発(ルフトハンザ航空 716 便)
3月25日(月)	11:00	羽田空港 着
	12:30	羽田空港 発(京急、新幹線)
	15:15	JR 名古屋駅 着

研修等の日程

令和5年	7月	7日	(金)	派遣生徒選考依頼
	11月	8日	(水)	派遣生徒決定
	12月	9日	(土)	派遣ガイダンス(派遣日程・渡航説明等)
	12月1	6日	(土)	第1回事前研修会
令和6年	1月2	7日	(土)	第2回事前研修会
	2月2	4日	(土)	第3回事前研修会
	3月2	8 FI	(木)	市長・市議会議長へ帰国報告

滞在中の当番日記

3月16日(土)・17日(日)

志比田 悠翔 · 原田 琴莉

名古屋駅に朝7時に集合するところから約1週間の派遣が始まりました。朝早くて少し眠かったですが、これから始まる派遣にワクワクしていました。まず、新幹線で羽田空港へ向かいました。品川で電車に乗り換えて向かったのですが、東京の人の多さに驚きました。そして、羽田空港からはまず経由地であるドイツへ向かいました。14時間のフライトはとても長くて、ずっと座ったままなのが想像していたよりも大変でした。ですが、機内食で出た日本食がとても美味しくて感動しました。そして、現地時間の夜の10時ぐらいにドイツへ到着しました。長時間のフライトでみんなヘトヘトでした。乗り継ぎの時間で買い物をしましたが、自動販売機で水が1本800円などで売られていているのを見て物価の高さに驚きました。そこから私たちの目的地であるイギリスに向けてまた飛行機に乗りました。14時間フライトの後の2時間のフライトはとても短く感じました。そして、深夜にイギリスに到着しました。時差もあって長い1日だったのでみんな疲れた様子でした。BSDCの職員の方が空港までお迎えにきてくださってそこからバスでホテルに向かいました。長い1日が終わりぐっすり寝ることができました。



次の日の朝、ホストファミリーと会いました。これから一週間この人と過ごすのだと 最初は緊張していましたが、街の中を散策しながら話しているうちにだんだん打ち解け ていきました。それぞれの家でそれぞれのホストファミリーが私たちをもてなしてくれ

ました。一例として、私はホストファミリーの両親の家へ遊びに行きました。伝統ある家の構造らしく柱が剥き出しになっており、木を燃やして使うストーブがありました。さらにお茶と菓子を振る舞ってもらい、庭で育てている植物などをみせてもらいました。決して日本ではできないような体験でこれ以外にも私たちにたくさんの経験をさせてくれました。



3月18日(月)

この日は初めて BSDC に登校し、英語講座を受けました。 kahoot というアプリを使 ってクイズに挑んだり、自分の好き嫌いを伝えるための様々な表現方法を学んだりしま した。好き嫌いの程度によって表現を変えられることを知って、表現のバリエーション が増えました。 また、あいさつの表現の仕方もたくさん種類があって、初めて知った ものもありました。クイズで分からない問題があった時には同じグループだった BSDC の学生さんがヒントをくれて楽しく活動できました。このクイズでイギリスのこ とについてさらに知識が身に付きました。リスニング問題では True or False の形式 で問題に挑みました。初めてのランチの時間はみんなで好きなものを選んでお話しなが ら楽しく過ごすことができました。緊張していてあまり自分から話しかけに行くことは できませんでしたが、BSDC の学生たちが話しかけてくれて嬉しかったです。 その後は バートン散策をしました。BSDC の周りにある店や建物を BSDC の学生とジョン先生 と一緒に回りました。一つ一つの説明が丁寧でバートンについて知ることが出来ました。 その後自分はホストファミリーの家で子供たちと一緒にゲームをしてコミュニケーシ ョンを取りました。お互いに会ってから日も浅く最初はあまり会話をせず静かにゲーム をしていましたがゲームを一緒にやるとどのようにキャラクターを動かすのが良いな どとアドバイスをしてもらい少しだけ子供たちと同じレベルで戦えるようになりまし た。あっという間に夜になり夜ご飯も一緒に食べて今日あった出来事や明日はどのよう なことをするのかをホストファミリーと話しました。

3月19日(火)

高橋 桃花・齋藤 煌

今日は、BSDCの学生達と一緒にアフターヌーンティー体験をしました。紅茶と一緒に食べるお菓子を作る班とテーブルをセッティングする班に前半と後半で代わりながら BSDC の学生達に教えてもらいました。お菓子を作る班では、クッキーやケーキなどを作りました。僕はケーキを作る班に入り、ケーキのクリームを作りました。普段はあまり料理をしないので心配でしたが、BSDC の学生達が優しく教えてくれたのでとても美味しいケーキを作ることが出来ました。テーブルをセッティングする班では、テーブルナプキンの作り方やコップやスプーンの置き方を教えてもらいました。アフターヌーンティーの準備が終わった後は、BSDC の学生達に日本食について紹介しました。テーマは恵方巻きについてで、恵方巻きの食べ方や味について自分たちで作ったパンフレットを見せながら紹介しました。学生達が「美味しいの?」「食べてみたい!」などと興味を持ってくれて良かったです。

アフターヌーンティー体験と日本食紹介が終わった後、13時15分にバスでBSDCを出発し、40分ほどかけてCalke Abbeyへ向かいました。着いたら受付で入場証を受けとり、まずは馬小屋を見学しました。そこには、馬に付ける蹄鉄や鞍などが飾って

ありました。ほかにも、見る角度によって絵が変わる不思議な絵画や、蹄鉄に砂袋を乗っけるゲームなどもあり、子どもでも楽しめるような場所だなと感じました。次に、Calke Abbey の中に入りました。外観も、とても立派でしたが、中の部屋も、沢山の家具や絵画、剥製が飾ってあり美しかったです。それぞれの部屋にガイドの方がおり、部屋の説明を丁寧にしてくださいました。また、部屋に沢山飾ってある剥製はどれも本物だそうです。16時にCalke Abbyを出発し、16時30分にBSDCにて解散しました。17時30分にタクシーが来るまでBSDC近くで友達とショッピングをし、18時くらいにホストファミリーの家に帰ってきました。夜ご飯は、ホストファミリーがEnglish breakfastを用意してくれて、食べながら今日あった事を話したり、一緒にレーズンケーキを作る約束をしました。この日は、イギリスの文化や建物について学ぶことができて楽しかったです。





3月20日(水)

杉本 昂己・川島 らい

今日は学校からタクシーでバクストンへ向かいました。そこではバクストンの街の歴史を学べる施設へ行き、私たちは3チームに分かれ、水には古い歴史があることや、昔はバクストンの水を求めてたくさんの人が訪れていたということなどたくさんの説明を英語で聞きました。施設ではVRでローマ時代の街並みを見る体験をしたり、複数の患者さんに合う薬を作っている様子の映像を見たりしました。また、スタッフからの説明や各所にある説明パネルの内容に普段使わなかったり目にしなかったりする英単語

があったので生徒同士で意味を考え、引率の先生から教えてもらうことで理解していました。





午後からは、英国トヨタ自動車(TMUK)に勤めている方から、海外にはどのように事業を展開しているのか、また、どのようなことをしているのか、説明を受けました。聞くだけではなく、実際に行って、見学して、日本の工場内とどのような違いがあるのか見てみたかったです。説明の後には、事前に考えてきた未来の車について全員発表しました。それぞれ個性的で、独創的な車を考えてきていて、良かったと思います。企業の人も、私たちが考えた車に対して、面白いだったり、乗ってみたいだったり、良い印象を持っていただいていたのでやって良かったなと思いました。



3月21日(木) 山岡 紅留未 ・ 藤野 莉子

BSDC に登校した後、午前中は服飾を専攻している現地の学生と先生に教えてもらい ながらトートバッグをデザインしました。材料は主に色が移りやすいポリエステルのバ ッグと絵の具です。直接バッグに絵を描くのではなく紙に絵の具で絵を描き、それをバ ッグにのせて高温の金属プレートで挟むことで色が移りバッグに模様を描くことがで きるというものです。絵を描いた紙とバッグの間にレースや落ち葉などを挟むことで、 綺麗な色の背景からその模様が切り取られたようなデザインにすることや、シールを貼 ることでリアルな花や動物のモノトーンのイラストに自分で色をつけることもできま した。工夫次第で無数にデザイン出来るため最初は中々決めることができませんでした。 ですが、どのようなデザインにするか迷っていると、現地の学生が絵を描くお手本を見 せてくれたり新しい案を出してくれたり何度質問しても丁寧に答えてくれたおかげで 楽しく素敵なデザインのトートバッグを作ることが出来ました。現地の学生が作った作 品を見せてもらいましたが、複数の色の紙を糸のように平織りなどにして模様を作って いて凝った繊細なデザインや日本の鬼や富士山のデザインもあって興味深かったです。 分からないことを英語で質問したことで語学力の向上に繋がっただけでなく、貴重な経 験をすることが出来ました。午後は BSDC の生徒に教えてもらいながら、コンピュー タを使って画像編集をしました。学校外へ歩いて出かけ、素材となる写真を撮りに行き

ました。人が浮いているように見える写真を作るために、画角を固定し、椅子の上に乗っている写真となにもない風景の写真の2枚を撮ります。のちにコンピュータでレイヤー分けをし、上に人が写っている写真を置き、椅子の部分を消して風景のみの写真が見えるようにすることで、人が浮いているように見えるということでした。さらにその写真にさまざまな加工を施し、ユニークな作品がたくさんできていて面白かったです。



3月22日(金)

保坂 早映 ・ 濱中 美羽

この日はCalke Abbey とBuxton 見学の感想についての発表とカルチャーショーを行いました。初めに3~4人のグループに分かれて発表の準備をしました。Calke Abbey と Buxton へ行き各々が感じたことや考えたことについてグループごとに資料や原稿を作り BSDC の学生さんにむけて発表しました。全て英語での発表だったので原稿を作るのに苦労しましたが、ジョン先生や BSDC の学生さん違に助けてもらいながらなんとか原稿を作り上げて発表することができました。



昼食後はカルチャーショーの準備をして、夕方からカルチャーショーを行いました。 カルチャーショーの準備では、ほとんど準備をすることがなかったため自分の名前や手 伝いに来てくれていた BSDC の学生さん達の名前を漢字で書いたり、けん玉やお手玉 で遊んだり、飾り付けのための折り紙を折ったりしていました。

夕方になりカルチャーショーが始まりました。最初に日本と豊田市についてのクイズを行い、それから書道、折り紙、日本の遊びの3つのブースに分かれて日本の文化を紹介しました。折り紙ブースでは扇や兜、手裏剣などの折り方を教えました。カルチャーショーに来てくださった方の多くが日本の侍や忍者を知っていたので特に兜と手裏剣は人気で折るとすごく喜んでくれました。その後、修了証を頂き記念撮影を行いました。カルチャーショーを通して日本の文化をたくさんの方に紹介することができてよかったです。



3月23日(土)・24日(日)・25日(月)

曽我 隼太郎 ・ 平畑 レチシア ・ 西田 美玖莉

今日はみんなが楽しみにしていたロンドン市内視察でした。ダービーシャーからバスでロンドンの地下鉄駅の近くまで行き、様々な所へ行きました。最初はロンドンアイに行きました。ロンドンアイの周りには屋台や公園もあり、人が多くとても盛り上がっていました。次にグラフィティトンネルに行きました。ここは誰でも自由に壁にペイントができ、個性豊かな絵がたくさんありました。その後、ビックベンに行きました。土曜日ということもあり人が多かったです。写真で見たことはあったけれど実際に見てみると想像より迫力があり、日本では感じられない驚きがありました。バッキンガム宮殿に私たちが行った時は、イギリスの国旗が掲げられていました。それは、国王がいる証らしいです。また、ベアハットを被った兵隊もいてイギリスらしさを感じました。そしてハリーポッターで有名なキングス・クロス駅に行きました。ハリーポッターのショップに行き、みんなと一緒にたくさんのお土産を買うことができました。また、ハリーポッターの映画にも登場する場所に実際に行くことができ、わくわくしたのと同時に感動し

ました。ロンドンにはスリがたくさんいると聞いていて、全ての移動が地下鉄だったので少し怖かったけれど、みんな何事もなくとても思い出に残る一日になりました。



翌日、まだイギリスでいろいろな経験をしたいという思いもありましたが、いよいよ日本に帰る日になりました。フランクフルト経由で長いフライトを経てやっとの思いで無事に日本に到着することができました。久しぶりに家族に会うことができとても安心しました。この経験を支えてくれたすべての人に感謝しながらこれからも生活していきたいです。



ホストファミリー紹介・派遣を終えて

- (1) ホストファミリー紹介
- (2)派遣を通して学んだこと

1 豊田工業高等専門学校

(1) ホストファミリーの紹介

私のホストファミリーは一人暮らしをしているモニカでした。モニカはいつも笑顔で優しくて、「ここを自分の家だと思って生活してね」と言ってくれたり、「やりたいことがあったら何でも言って」と言ってくれたりしたので、初めてのホームステイで緊張していましたがすぐに慣れることができました。ホームステイ1日目は学校がなく、ホストファミリーとゆっくり過ごせる日だったので一緒にスーパーに行きました。イギリスのスーパーは大きく、お肉などはブロックのまま売られていて商品のサイズが大きいのに驚きました。スーパーに売られていた大きなピザを一枚買ってくれたので次の日の夜に食べました。帰った後は、モニカは散歩をするのが好きだったので、家の近くの公園に一緒に散歩をしに行きました。公園には大きな池があり、その周りにたくさんの鳥がいてとても自然豊かな場所でした。モニカと自分の趣味や家族のことなどいろいろなことを話しながら歩く時間がとても楽しかったです。3日目からは学校があったのでホストファミリーとゆっくり過ごす時間はありませんでしたが、一緒に夜ご飯をたべたり、サッカー観戦をしたり、ソファで話をしたりして過ごしました。

自分のおばあちゃんかと思ってしまうぐらいいつも温かく接してくれて本当に楽しい1週間を過ごすことができました。あっという間に1週間が終わってしまってホームステイ最後の日にお別れを言うのがとても悲しかったです。これまで以上に英語の勉強や部活を頑張って成長した姿をいつか見せに行きたいです。



(2)派遣を通して学んだこと

私は今回初めてホームステイをしました。ずっと海外に行って日本とは違う環境の中で生活してみたいと思っていました。始めは不安もありましたが、約 1 週間という短い期間の中でたくさんの経験をすることができました。その中でも派遣を通して学んだことや感じたことを4つ紹介します。

1つ目は、日本の当たり前は当たり前ではないということです。特に驚いたのはバスが毎日遅延していたことです。僕は学校に行くときにバスを使っていたのですが、1週間のうち時間通りに来たのは1回だけで、いつも15分以上待たされたり、そもそも乗ろうと思っていたバスが来ないこともありました。ホストファミリーによると、バスは出発時間よりも前に出てしまうこともあるそうです。また、イギリスの食事にも驚きました。日本だとご飯、みそ汁、おかずなどバランスのとれた食事が多いですが、イギリスの場合は昼ご飯がポテトフライだけの時や、夜ご飯がフィッシュアンドチップスなどの揚げ物だけの時があり、ジャンクフードが好きな僕でも胃もたれしそうになりました。

2つ目は、コミュニケーションを楽しむことが一番大切だと感じました。イギリスに行くまでは、自分の英語力に自信がなくて会話ができるのか不安を感じていました。はじめの時は、緊張してしまってあまり話せないこともありましたが、簡単な英語を使って積極的に話してみると、楽しく会話をできました。そして、会話を楽しめるようになってくると、少しずつ英語が自然にでてくるようになっていきました。また、言いたいことの英語が分からない時や知らない単語がでてきた時は、翻訳を使ったり聞いたりすることで1週間という短い期間でも少しずつ使える表現が増えていきました。夜ご飯の時にはその日学校であった事をホストファミリーに話して、なるべくたくさん会話をするのに挑戦しました。また、イギリスの学校の英語の授業で Thank you や Hello などのあいさつや相手を思いやる言葉をたくさん使うことが大切と習ったので意識的にたくさん使うようにしました。ホストファミリーに初日に比べて英語上手くなったねと言ってもらったことがとても嬉しかったです。これからも英語を積極的に使って、英語力をつけていきたいなと思います。

3つ目は、日本や豊田市にしかない良いところがたくさんあるということを改めて感じました。日本にいた時は当たり前のことだと思っていましたが、日本だとバスが時間通りに来ることや、ご飯が美味しいところや、夜 1 人で歩いていても安全なところなど違う環境に行ってみないと気づかない良いところがたくさんあるなと思いました。また、イギリスでもたくさんの日本の車が走っているところをみて、日本が世界の役に立っていることが少し誇らしく感じました。

4つ目は、出会いを大切にすることです。今回の派遣ではホストファミリーや BSDC の先生や生徒などたくさんの出会いがありました。自分とは違う価値観をもっている人とたくさん関わることができたので自分の中に今までなかった視点ができたと思います。特に、ホストファミリーだったモニカはいつもフレンドリーで初対面の人にもたくさん話しかけていたので、その姿を見て自分も積極的に話しかけることに挑戦することができました。これから日本にいる時でも、人との出会いを大切にしていろいろなことを学んでいきたいなと思います。

私は今、高専で情報技術を学んでいて、将来日本だけでなく世界の人の役に立つもの を作れるようなエンジニアになりたいと思っています。今回の派遣でイギリスの文化を 五感で感じたことで、日本とイギリスには文化に多くの違いがあると改めて感じました。 文化が違うと、求められる物も違ってくると思うので、これからは今回の派遣で得た新 しい視点も持って、それぞれの人に寄り添ったものをつくれるようなエンジニアになっ て多くの人の役に立っていきたいなと思います。





2 豊田西高等学校

原田 琴莉

(1) ホストファミリーの紹介

私のホストファミリーはホストマザーの Rachel、息子の Luke、猫の Jess、そして ウサギの Floppy でした。Rachel はとても気さくな女性で、初対面で緊張している私 に「移動はどうだった?」「英語はどう?」などとたくさん話題を振ってくれました。 他にも一緒にスーパーマーケットに行って私が興味を持ったものの説明をしてくれた り、日本とイギリスではここが違うんだと説明するとそうなんだと笑顔で答えてくれた り、イングリッシュブレックファストなどのイギリスの伝統的な文化をたくさん教えてくれたり、私が紹介した日本の文化を楽しみながら体験してくれたりと Rachel の方からお互いの文化を積極的に交流させようとしてくれました。息子の Luke は中学生の男の子で、話してくれた授業の内容や学校の話は興味深くて、他にも好きなゲームを紹介

してくれたり、私が持って行ったお菓子を美味しそうに食べたりしてくれました。家にいた動物たちもすぐに私の緊張を解いてくれました。 Jess も Floppy も初対面の時から嫌がらずに頭を撫でさせてくれたり写真を撮らせてくれました。私は動物が好きなので彼らと戯れながらホストファミリーとも仲を深めることができました。特に Jess は王様のように振る舞うので見ていてもとても面白く、やることが無くな



ったときに観察したり、ホストファミリーと「こんなことしてたよ」と話を盛り上げることができました。私はこの優しく愉快な家で約一週間を楽しく過ごすことができました。

(2)派遣を通して学んだこと

約一週間という長いようで短いイギリスでの海外研修は私にとってたくさんの学びを得られたものになりました。私は中学生の時にイギリス以外の国での海外経験がありコミュニケーションについてはあまり心配していませんでしたが、やはり初めて行く国で生活するのは緊張するものでした。しかしスタッフさんや現地の学校の生徒、ホストファミリー、そして共に海を渡った派遣団の仲間たちの支えのおかげでとても楽しく、たくさんのものを得られました。そのなかでも特に私が学べたと思えたことは二つあります。

一つ目は勇気を出して積極的に動くことの大切さです。小学生の頃は積極的に手を挙げて重要な役割をもらうことも多かった私ですが、成長するにつれてそういった場面で手を挙げることや役割をする機会自体も減っていき、たくさんの経験を得るチャンスを逃してきたなと感じていました。今回の海外派遣に参加した理由のひとつにもそういった後悔をやり直したいという気持ちがありました。今回はたくさん積極的に動き後悔をやり直そうという気持ちを持てたこともあり、貴重な努力や経験をすることができました。事前研修の役割を決める時に役割を請け負ったり、頻繁に聞くことでみんなの意見を言ってもらうためのコツを知ることができたりしました。現地のプログラムの中でも積極的に行動することができました。でもそれは私の努力というよりは、周りの影響が大きくありました。今回の派遣団はアクティブな仲間が多く、私もその勢いに引っ張られ積極的に動くことができました。例えば皆がサポートに入ってくれた現地の生徒の方々ととても仲良くなっていて、私もたくさん話しかけようという勇気をもらえました。他にもカルチャーショーについてホストファミリーと話したときにも「いつもより工夫がされていて今までのカルチャーショーで一番楽しめたし皆も楽しそうだった」と嬉しい言葉をもらえました。

二つ目は諦めずに伝え続ければ意思が伝わるということです。私は日本語でも他の言語でも数回伝えようとして伝わらない、また人から数回伝えられても理解できない時には諦めてしまう癖がありました。しかし今回は普段の学校でも聞きなれない言語で会話していたので、例えばホストファミリーや店員さんなどに言いたいことやしてほしいことが伝わらなかった時や相手の言っていることが分からなかった時にいつもより根気よくコミュニケーションを取ろうとしたことで、なめらかでないながらもしっかりとした会話ができていたと思います。しかしそれを思い返してみると、普段の会話で同じようなとっかかりがあったときには理解してもらうことを諦めてきたなという気づきがあり、とてももったいないことをしていたなという自覚が持てました。それからは伝え

たいことがあったときやなにかが分からないと言っている子がいた時にも根気よく理解してもらえるまで説明や言い換えをしようと心がけるようになりました。現地では、一度一人でカフェに行って「ケーキはどうだ」と何度も尋ねられてなかなか「いらない」ということが伝えられなかった時、一度諦めて買おうかとも思ったのですが諦めずに「お金をあまり使いたくない」と伝えると店員さんに「初めて来てくれたからサービスしようとしただけだよ」と説明され、私が誤解していたのだと知れたことで失礼なことをせずに済むことができました。お互いに諦めずに自分の意志を伝えようとすることでお互いの理解をさらに深められるようになるのだという学びを得ることができました。

今回の海外派遣を通して、私は人とコミュニケーションを取るために必要な自分の意見を積極的に言う勇気と、他の人と意見を交換するための根気が足りなかった自分を変えることができました。今回得られたこの心持ちを活かし、これから絶対的に必要になるであろう人とのコミュニケーションでアクティブに自分の考えを他者と共有し、また他者の考えと自分の考えの理解を深め合うことでより深くまた円滑に意見交換ができるようにしたいと考えています。







3 豊田東高等学校

杉浦 花菜

(1) ホストファミリーの紹介

私のホストファミリーは、ファザーの Nathan、マザーの Jurate、犬の Dollar です。 初日はとても緊張していて、聞かれたことに答えることしかできませんでしたが、日本 について質問してくれたりイギリスのことについて教えてくれたりして、少しずつ話せるようになりました。常に私のことを気遣ってくれて、安心して過ごすことができました。「緊張しなくていいよ」と声をかけてくれて、私が楽しく会話ができるようにいつ もたくさん話しかけてくれました。事前に「チョコレートが好き」と聞いていたので、日本のお菓子をプレゼントしました。とても喜んで食べてくれて嬉しかったです。この

日は、ホストファミリーと一緒に映画を観たり、みんなですごろくやビンゴなどをして 楽しい一日を過ごすことができました。

私が学校から帰るといつもホストマザーが美味しい夜ご飯を用意してくれていて、今日楽しかったことやランチで食べたもの、ショッピングモールで買ったものなどについてたくさん話しました。日本とイギリスの違いについて話したり、趣味について話したりしてとても楽しい時間を過ごすことができました。話が聞き取れなかった時には、ホストマザーが簡単な英語で分かりやすく説明してくれました。私の話すスピードがゆっくりでも、笑顔で話を聞いてくれました。最終日、お別れするときにはハグをしてくれました。とても優しいホストファミリーのおかげで楽しい充実した一週間を過ごすことができ、幸せでした。



(2)派遣を通して学んだこと

私がこの派遣で目標にしていたことは現地で英語でなるべくたくさん話すことでした。約16時間のフライトを経てたどり着いたイギリスでは、初めは緊張して思うように会話ができず落ち込みましたが、ホストファミリーや BSDC の学生さんが話しかけてくれてたくさんの思い出ができました。私は学校までバス通学だったのですが、バス停が分からなかった時、たくさんの方が助けてくれました。朝、学校に行くバスはここだよとバスの乗り方を教えてくださった女性の方、どのバスに乗ればよいかわからなかった私に親切に教えてくださったバスの運転手さん、みなさんがとても優しく接してくれました。

次に、BSDCでは学生さんとたくさん交流することができました。アフタヌーンティーのテーブルセッティングの際にはペアの学生さんが丁寧にやり方を教えてくださって、完成した時にはすごく褒めてくれました。バッグを作る授業では、何を描こうか迷っていると、「これを使ったら?」と話しかけてくれてアドバイスをくれました。また、写真の授業では同じグループだった学生さんがたくさん話しかけてくれました。BSDC

の学生たちは授業の中で自分の好きなことにとことん取り組んでいるというイメージを持ちました。私も好きなことに一生懸命取り組んでいきたいと思わせてくれました。一緒にランチを食べようと誘うと喜んでくれて、色々な話を聞くことができました。私は完璧な英語は話せませんでしたが、話そうとする姿勢、相手のことを知りたいと思う気持ちが大切なんだなと感じました。多少言葉の壁があっても簡単な単語、文章で伝えてもいいんだなと思いました。また、話しかけられるのを待つのではなく、自分から積極的に話しかけることの大切さを改めて実感しました。仲良くなった人とは、インスタグラムやWhatsAppを交換して帰国した今でも連絡を取り合っています。BSDCの学生たちとたくさんお話をしたこと、授業後にショッピングに行ったことなど BSDC での生活はとても楽しくて忘れられない思い出の一つです。

そして、ホストファミリーはとても優しくて、ホストファミリーの家がいちばん安心できる場所でした。学校から帰ると、「学校は楽しかった?」と声をかけてくれたり私が会話に参加できるようにたくさん質問してくれたりしました。ひとつ質問に答えるとそこから話題を広げてくれて、話を聞いていてとても楽しかったです。家族の写真を見せたら興味を持ってくれて、会話が弾み、少しずつ話せるようになりました。同時に自分から話し出すことの難しさを感じ、私のこれからの課題だと思いました。バス停の場所が分からなかったと言うと、ホストファザーが一から説明してくれて大丈夫だよと言ってくれてとても安心しました。私はホストマザーが作ってくれたケーキが大好きです。事前に食べたいと伝えてあったフィッシュアンドチップスをテイクアウトして食べた日もありました。私は日本のインスタントのみそ汁を作り、夜ご飯に食べてもらったら、おいしいと言ってくれました。また、ホストファミリーはジクソーパズルをやっていて、一緒にやろうよと誘ってくれました。私がホームステイしている間に完成することはできませんでしたが、帰国した後完成した画像を送ってくれました。カルチャーショーの時には書道の担当だった私のもとに一番に駆けつけてくれて嬉しかったです。私が一週間楽しく過ごせたのはふたりのおかげです。

最後に、イギリスの方は楽しくて面白い方が多かったので常に笑顔でいることができました。フレンドリーで優しい人が多くて、そんなに硬くならなくていいということを出会った人たちが教えてくれました。みんなが私の拙い英語に耳を傾けてくれて本当に感謝しかありません。ホストファミリーや BSDC の学生たちと交流する中で、英語でコミュニケーションするのはとても楽しいなと思いました。伝える楽しさ、理解できる嬉しさ、伝わった時の達成感は忘れられません。

私はまたいつかイギリスに行ってホストファミリーや仲良くなった人たちに会いに行きたいという新しい夢ができました。さらに英語を勉強して、成長した姿で会えるようにこれから頑張っていこうと思います。私はこの派遣を通して、自分の視野が広がったと同時に様々な視点から物事を捉えられるようになったと思います。いい意味で楽観的に生きることの大切さを知りました。この派遣で自分の未来に対して明るい見通しが

持てるようになりました。実際にイギリスで見たこと、聞いたこと、感じたこと、体験 したことは絶対に忘れません。楽しかったこと、嬉しかったこと、大変だったこともす べて私の大切な思い出で、宝物です。

このような素敵な体験ができたのは、ホストファミリーや BSDC の方々、市役所の方々、同行してくださった近藤さん、先生方、家族、そして何より派遣団のみんなのおかげであり、感謝の気持ちでいっぱいです。この派遣に参加できてよかったです。ありがとうございました。





4 衣台高等学校 川﨑 亮

(1) ホストファミリーの紹介

今回のイギリス派遣でホストファミリーになってくれた人は7人家族でカール、フラン、シェイ、アッシャー、ジャクソン、ジェイデン、ジャスミンの男性5人と女性2人の家族でした。フランは大学で働いておりとてもフレンドリーで明るい人でした。フランはとても私を気遣ってくれとてもリラックスして過ごすことできました。フランはとてもコミュニケーション能力が高く一緒に道を歩いて散歩をしていた時に全く知らない人と喋りだして少し喋っただけでとても仲良くなっていたので私もコミュニケーションは得意な方だと思っていましたが海外の人の凄さを実感しました。カールは警察官で身長が高く筋肉もすごかったので初めて会った時には圧倒されました。話すと凄く面白い人でした。私が派遣されたタイミングがとても忙しい週で中々会うことは出来ませんでしたがしっかりと感謝を伝えることができて良かったです。フランの子供達はサッカー、ラグビー、バスケットボールをしていてとても活発な子どもたちでした。ホームステイ初日にはみんなで一緒にサッカーのゲームをして盛り上がっていて子どもたちのコミュニケーションにも驚きました。初めてのホームステイだったがホストファミリーはとても優しく元気な家族でした。

(2)派遣を通して学んだこと

僕はこの経験を通して沢山の事を学びました。イギリスでの生活は自分の将来の夢を 叶えるのに非常に良い経験になりました。イギリスでの生活で自分が得たことは大きく 3 つあり 1 つ目は挑戦をする事です。僕は 4 年間アメリカに住んでいました。その時は 初めての海外で英語も喋れなくてその上現地の学校に通うという全てが未体験でした。 その時は英語を喋ることを恐れて日本語を喋れる人にずっと頼り切り何をするにもそ の人がいないと何もしないという状態で何もしないまま4年を過ごしてしまいました。 日本に帰ってからは何もしなかった4年間を振り返ってとても貴重な経験をさせてく れる中何もしなかった自分に怒りとても後悔をしました。その時に絶対に後悔がないよ うに高校生活を送ると決意しました。ある日先生がイギリス派遣の声をかけてくれまし た。僕はこれはチャンスだ絶対に行きたいと思い親に相談をしたら了承をしてくれまし た。僕は絶対に前あった後悔はしないと再度決意をしてイギリス派遣へ向けて毎日がん ばりました。長いようで短いイギリス派遣までの約6ヶ月の準備期間はとても楽しかっ たです。イギリスには何があってどんな所でどんな文化なんだろうなとインターネット などで調べたり、研修では一緒に行く仲間達と他愛もない会話をして凄く盛り上がって いました。イギリス派遣当日になり緊張1割楽しみ9割で親に元気に行ってきます!と 言いイギリスへ行きました。 イギリスに行って人生初のホームステイをしました。 派遣 メンバーには強がっていましたが内心はとても緊張していました。ホストファミリーは とても優しく歓迎してくれました。初日はまだ耳が慣れてなく会話もままならなかった のですが、現代はスマホで翻訳などができるので単語や文を作ってその文を読んでなる べく会話をして積極的に頑張りました。その次の日から BSDC で色々な体験をさせて もらいました。そこでも積極的に生徒と会話しました。日本のアニメの話やイギリスに ついての話、自分の拙い英語を生徒の人は真剣に聞いてくれて聞き取りやすいようにゆ っくりと喋ってくれました。イギリス派遣を通して自分の知らない世界を目で見て肌で 感じ、さらに挑戦する事で自分が更に成長する事ができ、挑戦し続ける事の大切さを知 りました。

2つ目は英語を喋ることです。どの国も共通で言語の壁はとても大きいと言われる事が多々あり、確かに大きいのですが、僕には薄く感じられました。現地の人はしっかりと英語を聞いてくれ何を言いたいかをある程度喋れば察してくれます。自分から喋るのは緊張するし伝わらなかったらどうしようなどと考えるが、そこでその壁に立ち向かえる人はきっと何をしてもその壁を殴り壊して進めるのだろうと思い僕もそんな人になるためにその壁を壊して進みました。高校で習う英語は海外でも十分通用するのだと気付きそれは海外で使ってみて思ったことなので間違いはないと思います。英語は第2言語として使う国が沢山あり英語は意外と簡単なんだなと思いました。僕の将来の夢を叶えるためには英語は必須なのでこれからも精一杯頑張ろうと思いました。

3つ目は知ろうとする事です。自分はイギリスについてはインターネットなどで調べ

たぐらいでした。しかしイギリスで過ごした9日間でイギリスについて深く知ることが 出来ました。例えばイギリス料理は美味しくないと言われることがありますがイギリス 料理を食べてみると決してまずいことはなく単純に味が薄いだけでした。それは調味料 や味がしっかりとしている日本料理ではないまた違う味で僕はとても好みの味で好き 嫌いがわかれるなと感じました。調べる事も大切ですが肌で触れ目で見て知ることが大 切だと学びました。このイギリス派遣を通じて更に自分を成長させることが出来ました。 この貴重な経験をさせてくれた親、サポートしてくださった方々に心から感謝をしてい ます。





5 猿投農林高等学校

高橋 桃花

(1) ホストファミリーの紹介

私がお世話になった方は、Julie White という方で、一軒家に住んでいて犬と4羽の鶏と暮らしています。一緒には住んでいませんが、成人された娘さんもいらっしゃるそうです。犬の名前はSpikeyといってボールを投げてもらうのが大好きで、すぐボールを持って来るのですが、ボールをなかなか離してくれずボールを投げれないことがほとんどで面白かったです。しかし、本当にボールが大好きなようで家や庭にあるボールを数えたら20個以上あるそうです。Julie さんの趣味は、料理や散歩、旅行、絵を描いたり、海や花を見ることなど沢山あるそうです。料理では、特にチキン料理が好きなのだそうで、私がお世話になっている時もチキン料理を振る舞ってくださいました。チキン料理はもちろんのこと、他の料理もどれも美味しくて21日の学校帰りに一緒にレーズンケーキを作りました。Julie さんの家を離れる日には、「日本でもレーズンケーキを作ってみてね」とレーズンケーキのレシピを書いた紙をプレゼントしてくださいました。他にも、自分の畑でとれた苺でジャムを作っていて、そのジャムもとても美味しかったです。Julie さんの家には、私ともう1人の計2人でお邪魔したのですが、初めて会っ

た時から私達のことを気遣ってくださる優しくて、明るい方で、Julie さんのおかげで イギリスでの生活がより楽しいものになりました。ありがとうございました。



(2)派遣を通して学んだこと

私は、今回の高校生派遣に「自分から積極的にいろんな人に話しかけて自分の英語力 を上げる」という目標を持って参加しました。しかし、私は今回が初めての海外という こともあり、不安な気持ちでいっぱいでした。17日に、泊まっていたホテルでホスト ファミリーの Julie さんと合流しました。この日はホストファミリーと自由に一日過ご す日で、ホストファミリーの家の周りを散歩しながら紹介してくれました。Julie さん は、とても気さくな方で「疲れてない?」「日本からここまでどのくらいの時間がかか ったの?」とたくさん話しかけてくれました。しかし、話を聞き取れないことが多くこ の日は会話を避けてしまい、自分から積極的に話しかけることが出来ずに一日目が終わ ってしまいました。次の日からは、BSDC という学校に通いました。この日は、John 先生が英語の授業をゲームも加えながらとても楽しく行なってくれて今までの緊張感 や不安な気持ちが軽くなり、せっかくイギリスに来たんだからチャンスを無駄にしたく ないと思いました。この日から少しずつホストファミリーや、BSDC の生徒達にも話し かけることが出来るようになりました。そのお陰か、ホストファミリーと話していて初 日よりも英語を聞き取れるようになったなと感じて嬉しかったです。19日は、英国料 理体験があり、料理だけでなくお皿やカップの置く位置などのセッティングを BSDC の生徒達が教えてくれました。準備手順が意外と多く大変でしたが、イギリスの文化に 直接触れることができてよい経験になりました。英国料理体験が終わったあとは、Calke Abbey を視察しました。外観から日本とはまた違った立派な建物で、圧倒されました。 部屋はほとんど昔のままらしく、部屋ごとのガイドさんがどのような部屋なのか教えて くださりました。特に印象に残っている部屋は、お昼ご飯を食べた後に女性達が紅茶を 飲んだりして過ごす部屋と、男性達が政治などについて話し合うための部屋で、まず驚 いたのはそんな部屋があったんだなということです。部屋が分かれていることから、当

時は女性が政治などの話に関わることが少なかったのだろうなと感じました。また、女性の部屋にはオシャレな机や椅子が沢山置いてあるものの、本などは置かれていませんでしたが、男性の部屋には沢山の本と馬の絵が数枚飾ってありました。このことからも、昔の男性と女性の役割の違いを感じました。馬の絵ですが、男性達の部屋以外にも屋敷のいろんなところに飾ってあり、当時の馬がどれだけ重要なものだったのかが想像出来ました。20日のBuxton 視察では、昔のイギリスの病気の治療法などを教えていただきました。正直、説明をあまり理解することが出来なかったのですが、映像も一緒に流しながら説明をしてくださったので分かりやすかったです。観光で来た人達にも理解してもらいやすいような工夫がされていて凄いなと思いました。BSDC に通う最終日に行ったカルチャーショーでは、今までお世話になったホストファミリーの方達を招いて「けん玉」「折り紙」「習字」の3つの班に分かれて体験をしていただきました。どの遊びも笑顔で楽しんでくださり嬉しかったです。文化の交流は、お互いに新しいことを学んだり経験することの出来るとても大切な機会なんだなと感じ、イギリスの文化だけでなく豊田についても、もっと知りたいなと思いました。

私はこの10日間で、イギリスの言語や文化、建物について学ぶことが出来ました。特に言語では、拙い私の英語を皆さん最後まで優しく聞いてくださり、「自分から積極的にいろんな人に話しかけて自分の英語力を上げる」という目標を達成することが出来ました。自分からいろんな人に話しかけることで英語だけでなく、自分の積極性も高めることが出来たと感じています。また、ホストファミリーからは、English breakfast やPlaughmans Lunch などのイギリスの料理について教えていただきました。日本とは違った料理で、いろんな料理の形があるんだなと勉強になりました。他にも、日本にはない食べ物や日本ではあまり見ない羊や馬があちこちで見られて新鮮な体験を沢山することが出来ました。このような貴重な経験ができて、今回の高校生派遣に参加して良かったなと感じています。イギリスで体験したことや学んだことは、まずは家族や友人などの身近な人達に伝えていき、イギリスの良さを知ると同時に豊田の良さにも気づく機会になったら良いなと考えています。ありがとうございました。







6 松平高等学校 齋藤 煌

(1) ホストファミリーの紹介

僕は、Walton家にホームステイさせてもらいました。今は、ホストファザーのDavit とホストマザーのPennyと猫のSilverの三人で暮らしています。また、家族にホストファミリーの娘であり僕たちが通った学校の先生でもある Ann さんもいます。初めてホストファミリーに会った時、僕はとても緊張していたのですが、ホストファミリーの二人がとても温かく迎え入れてくださったおかげですぐに緊張が解けました。この日は、朝ホテルを出発して家に向かいました。家に着いたのはお昼だったのでホストファミリーがお昼ご飯を用意してくれていました。とても美味しかったです!! お昼ご飯を食べ終わった後ホストファミリーと一緒にショッピングに行き、楽しく買い物をしました。ショッピングから帰ってきたら日本のお土産でお菓子と忍者のグッズを渡しました。特に忍者のグッズを気に入ってくれていたので良かったです。次の日からは学校が始まり朝から美味しい朝ごはんを作ってくれました。また、朝は笑顔で学校に送り出してくれて、学校から帰ると「今日はなにをしたの?学校は楽しかった?」と声をかけてくれました。そのおかげで、とても居心地の良い時間を過ごすことができました。

ホストファミリーと過ごす最終日には「あなたと会えてよかった!」「またいつか会いましょう!」と言ってくれました。僕はこんな素敵なホストファミリーに出会えてとても幸せです。1週間という短い期間でしたが本当の家族のように接してくれて今ではもう一つの家族です。またいつか会いたいです。



(2)派遣を通して学んだこと

僕は、この派遣でイギリスの文化や語学面 ・コミュニケーション能力向上が出来たらいいなと思い参加しました。海外には家族旅行で行ったことはありましたが、現地の人の家にホームステイさせてもらうことは初めての経験でしたので最初は不安もありましたが、派遣前に派遣生みんなでホストファミリー向けに行うカルチャーショーの準備をしたりする中で期待の方が多くなってきました。普段の日常生活では英語を使う機会があまりないため、映画などを英語で聞き英語を日常生活に取り入れるように努めよ

うとしましたが、イギリス英語の発音を聞き取ることに苦戦しました。しかし、現地の学校(BSDC)の授業のおかげもあってか、ある程度の内容は理解することができました。現地の学生と関わるときに自分の気持ちを相手に伝えることの難しさを改めて実感しました。好きの中にも like(好き)や crazy(好き過ぎる)などいくつかの段階があるとわかり、新たな表現方法を学ぶことができました。BSDC は世界中から学生を受け入れており、誰もが自分のやりたいことを一生懸命やっていて、僕も真似をして努力していきたいと感じさせられました。

僕は、元々イギリスの文化に興味があり特にイギリスのフットボールの文化 ・歴史 のある建築物に興味がありました。

1つ目、フットボールはイギリスで始まりとても長い歴史があるため日本の人たちと 現地の人たちのフットボールへの考え方の違いについて学べたらいいなと思っていま した。いざ現地に行ってみて感じたことは、イギリスの学校には日本の学校と比べてフットボールをするために適した場所が多くあったためイギリスではフットボールが身 近にあることがわかりました。ロンドンに行ったら試合がある日でもない日でもユニフォームを着ている多くの熱狂的なフットボールファンを見かけイギリスでのフットボールの人気度や価値観の違いを改めて感じさせられました。

2つ目、派遣前まではイギリスのごはんはあまり美味しくないと思っていましたが、食べてみたらどの食事も美味しく特にホストファミリーが調べて作ってくださったお肉の料理が美味しかったです。その料理名はわかりませんが鶏肉のカレー風味の煮込み料理で、鶏肉も柔らかく味もしっかりしていました。アフタヌーンティー体験では紅茶と一緒に食べるお菓子を作りました。僕は普段料理をしないためうまくいくか緊張していたのですが、BSDCの学生さんが協力してくださったためとても美味しいお菓子を作ることができました。ほかにもアフタヌーンティーの食べ方で下段から上段にかけて食べるという知識を教えてもらいイギリスの食文化に魅力をより感じることができました。

3つ目、日本の建築物とイギリスの建築物の文化の違いに興味をもちました。日本の 建築物は木造で伝統的な和室や畳が使われているのに対してイギリスの建築物は建築 様式が様々あり特にレンガ作りが多く何世代にもわたって使われているため昔ながら の雰囲気が残っていました。派遣を通じてそれぞれの建築様式を実際に見て知ることが でき、より一層興味を持つことができました。

僕は、あまり英語が得意ではなかったため今回の派遣を通して語学力を向上させるために現地の人たちと積極的にコミュニケーション取りたいと思っていました。初めてホストファミリーに会った日に日本から持ってきたお土産を渡しました。その時、お土産の説明をしょうとしたら言葉がでてこなくなりとっさに翻訳アプリに頼ってしまいました。また、自分の発音が悪く自分の気持ちをうまく伝えることができませんでした。そこからどうすれば相手に気持ちを伝えられるか考えたとき、自分がわかる単語と文法

を使ってコミュニケーションを取るようにしようと考えました。その経験を踏まえて、 次の日からホストファミリーと積極的に会話をすることができ派遣事業により意欲的 になりました。

僕は、この派遣事業に参加できたことでとても良い経験をすることができました。日本にいるときの生活とは違うことが多く初めは不安な気持ちもありましたが日本では学ぶことができないイギリスの文化やイギリス人の人柄など本場の雰囲気を感じることができとても貴重な経験になったと思います。また、日本のアニメ文化や食文化など日本の文化の良さや魅力について再確認することができ特に日本のアニメは海外でもとても人気があるとわかりました。僕は将来海外で働きたいと思っているのでこの派遣で学んだ多くのことを無駄にしないように自分の将来に良い影響を与えられるようにしていきたいです。

今回の派遣事業が良いものになったのは派遣をサポートしていただいた方々や一緒に派遣に参加した派遣生・引率してくださった先生方のおかげです。本当にありがとうございました。





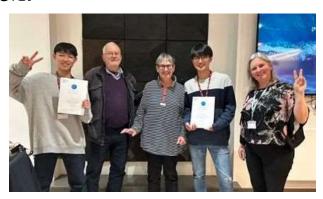
7 豊田工科高等学校

杉本 昂己

(1) ホストファミリーの紹介

私のホストファミリーは Penny と David の老夫婦でした。2人はとても優しく、メールの中では行きたいところを聞いてくれたり、会ってからはやりたい事やご飯の事など多くのことを気にかけてくれました。さらに、2人はとてもアクティブで、スヌーカーというビリヤードに似たイギリスの遊びやアーチェリー、夜ご飯を食べにパブにも連れて行ってくれました。他にも、食後にパズルをやらせてくれたり、私が好きなサッカーの試合を見せてくれました。アーチェリーやスヌーカーは日本ではなかなか体験できないことだったのでやれて良かったですし、とても楽しかったです。1日目にホストファミリーと過ごす時間があってアウトレットに連れて行ってもらいました。ご飯は、毎日手が込んでいて、とても美味しかったです。学校から帰るのがとても楽しみになっ

ていました。日本からのお土産を渡した時にはとても喜んでくれて持って行って良かったなと思いました。お別れの時は 2 人とも元気でねってハグして、朝ご飯まで作ってお見送りしてくれて最後まで優しさが溢れている人達でした。またイギリスに来る時には「うちに泊まってね、空いてる部屋はあるから」と言ってくれたので、ぜひ会いに行きたいなと思いました。



(2)派遣を通して学んだこと

私はこの派遣で初めて海外に行きました。行く前は、言語や文化の違いだったり、色々なことに不安を抱いていました。ですが、この派遣を通して、様々なことに触れ、多くのことを学び、これからに役立てられる力を身につけることができました。

身についた力 1つ目は異文化に対する理解力です。今まで私は日本の中だけで、日 本の文化だけで生活をしてきました。小さい頃や、小学生の頃に英会話教室に通ってい ましたが、そこのアメリカ人の先生の家でさえ、日本式になっていました。なので、他 の国の文化や、生活を全く知りませんでした。この派遣ではホストファミリーの家で一 緒に過ごしたり、BSDC の中の売店で昼ごはんを食べたり、街に出て買い物や食事をし ました。その中で、色々な文化を学びました。例えば、ホストファミリーと一緒に遊ん だ、スヌーカーというビリヤードに似たものや、アーチェリーは日本ではなかなか行え ないものだと思います。食べ物は、味が濃いものは濃かったり、薄いものは薄かったり と両極端でした。夜ご飯で出たり、学食にあったラザニアはとても味が濃くて、お腹に 溜まって、普段食べない私たちからしたらとても重かったです。マクドナルドも日本に は無い商品があったり、味がより濃かったりしました。日本食屋さんにも行きましたが、 とんこつラーメンの上にソースがかかった牛肉がのっていたり、たこ焼きに硬い何かが まぶしてあったり日本とは少し違う日本食もあってとても面白いなと思いました。他に も、道のどちら側を歩くのか、食事の時のマナーがあります。スプレーアートをしてい いトンネルがあったりと日本ではあり得ないものもありました。このような、私たちと 違う生活を経験できたので、これからは外国人の方と学校や、仕事で一緒になった際に、 気を配れるかなと思います。

2つ目は英語力です。前述の通り、私は昔、英会話教室に通っていました。実際にア

メリカ人と話していたので、相手が何を言ってるのか聞き取り、大まかに理解する事は今もできるのですが、小さい頃に習っていたこともあり、話すのはとても苦手でした。ホストファミリーや、BSDCの生徒、先生、お店の人と話さないといけないので、とても不安を感じていました。1 日目の移動の際に、ドイツの検疫を通ったのですが、そこではほとんど話す事ができませんでした。不安を持ったまま、ホストファミリーと会いました。会って、車の中で話しかけられて、つたない英語で返していたのですが、「あなたの英語上手よ」と言ってもらえました。そこで、簡単な単語や、文法だけでも話せるんだなと思い、自信がつきました。そこからは積極的にコミュニケーションを取ったり、お店でも難なく注文する事ができました。さらに友達もできて、会話もする事ができました。翻訳を使わないと、話せない事だったり、聞き取れない事もありましたが、色々な人と話す事ができて、とても良い経験になりました。これからはより勉強をして、成長した姿をホストファミリーや、友達に見せれたらいいなと思います。

次に僕が 1 番楽しかった事です。それは、BSDC でできた友達、Janis と一緒にいる事です。Janis とはアニメで仲良くなりました。BSDC に登校し始めた時から私たちに帯同してくれていましたが、最初は緊張して全く喋れませんでした。少し話す機会があって、その時にアニメの話を振ってくれてそこから仲良くなりました。昼ごはんを一緒に食べたり、プレゼンテーションを一緒に聞いたり、カルチャーショーの準備を手伝ってくれたりと、ずっと一緒にいました。Janis の妹とも仲良くなって、妹は、けん玉が好きで、カルチャーショーの日はずっとけん玉を練習していました。Janis は私たちのことを兄弟と言ってくれるほど慕ってくれて、私に取っては初めての海外の人の友達だったので、嬉しかったし、言語の壁を超えたなという実感を感じました。日本にも来たいと言っていたので、来た時には、僕が日本を紹介できるように、日本のことを勉強しておきたいなと思いました。

10日間という短い期間での派遣でしたが、私のこれからの人生にとって、とてもプラスになるものだと思います。海外の人への考え方、価値観もすごく変わりましたし、

理解もできたと思います。また、私は人見知りしがちなのですが、派遣の中で色々な人と接して、話せる事がわかったので、日本でもより多くの人とフレンドリーに話せるようになるかなと思います。ホストファミリーと話している時に、日本のことについて、聞かれた事があったのですが、答えれる事が少なく、調べたり、知らないと言ったりする事が多かったのですが、イギリスのことを聞くと、ほとんど知っていたので、相手のことを





知るには、まず自分のことをよく知らないといけないなと感じたので、日本の文化などもこれから学び、それを英語で説明できるようにもしていきたいと思いました。

8 足助高等学校 川島 らい

(1) ホストファミリーの紹介

私のホストファミリーは写真にいる2人です。旦那さんはAndew、奥さんはClaire といいます。2 人の他にも家には息子夫婦と4歳と2歳の子供たち、さらに韓国人留学 生 1 人が暮らしており、とても賑やかでした。家は3階建てで、広い庭もあり、そこ には鶏もいました。3階に息子夫婦が住んでいるのであまり家の中では会うことは少な かったですが、子供たちは会いに来てくれたり、夫婦に会えた時は話しかけてくれたり と親切にしていただきました。ディナーは、私と Andew、Claire、韓国人留学生の4 人で食べていました。家の中での生活はリビングにみんなで集まり賑やかにしていると いうより各々の部屋にいる家族だったので、ディナーの時が1番コミュニケーションが 取れる時間でした。ホストファザーは必ず食前には「いただきます」、食後には「いた だきました」と日本人の私に合わせて言ってくれたり、韓国人留学生から韓国語の言い 方も教えて貰えました。Claire はスピーキングが苦手な私のために食後にパズルをしよ うと誘ってくれたり、車での移動時間でも目に見えたものを英語で言ってみようと私が 英語を話せるように工夫してくれました。また、文法や発音が違ったりすると、私がで きるようになるまで優しく教えてくれていたので英語の先生のようで嬉しかったです。 私は、Claire のおかげでイギリス英語を聞き取り、理解出来るようになったと思ってい ます。Andew と Claire が私を受け入れてくれた事にとても感謝しています。



(2)派遣を通して学んだこと

私はこの派遣に参加したことで、自分にとって良い経験をする事が出来たと感じています。

1日目では、ホストファミリーと初めて会い、家族の誕生日会へ行きました。ホーム

ステイ先では英語のみを話す環境なので、日本の授業で使うアメリカ英語ではなく、イギリス英語を聞くことで、発音の違いなどで上手く聞き取れなかったり、何回も聞き直してしまったりする事がありましたが、話の流れや言葉のニュアンスを考えることで理解出来たりコミュニケーションが取れたりしました。また、ホームステイ先ではアメリカ英語とイギリス英語の違いを知る良い機会だと思い、もっとコミュニケーションを取るうと意識するようになりました。私が行った誕生日会は、親戚が沢山集まりとても賑やかでした。また、家族みんなが散歩が好きなので家から近い広い公園の様な場所へ行き、1時間ほど歩いたり、子供たちとボール遊びをしたりと、たくさんの方とコミュニケーションをとることが出来たのでとても良い経験になりました。

2日目は前半は授業で Hello の種類を学び、後半は BSDC 周辺を散策しました。授業では自分が知っていたよりも種類が多く、とても面白かったです。後半での散策では、買い物が出来る場所や図書館などを教えてもらいました。私は教えてもらった場所へ放課後に友達と買い物へ行ったりしました。

3日目は異文化体験です。体験ではアフタヌーンティーを行いました。それぞれテーブルをセットしたりグラスを運ぶ練習をしたりするチームとキッチンでスコーンなど作る2つのチームに別れてチームを交換させてみんなどちらも体験しました。私はアフタヌーンティーを体験したことがまだ一度も無かったので楽しみでした。自分が思っていた以上にマナーがありました。紅茶の飲み方やスコーンの食べ方を教えてもらいました。

4日目はバクストンへ行きました。そこではバクストンの街の歴史を学べる施設へ行き、街の歴史、施設の説明など、スタッフさんからたくさん説明を聞きました。施設では、VRでローマ時代の街並みを見たり、複数いる患者さんのために合う薬を作っている映像を見たりする体験をする事が出来ました。

5日目のカルチャーショーでは、私は折り紙を担当していたので、派遣生徒のホストファミリーなどの方に折り方を教えなければなりませんでした。私はリスニングよりもスピーキングが苦手だったので自分が思っていることを伝えるのはとても大変でした。ですが、ホストファミリーや BSDC の学生は、私が伝えようとしている事を最後まで聞いて理解してくれようとしてくれてた事で、自分の思っている事が上手く伝えられなくても、最後まで伝えるという事と、最初から完璧に話す事ができなくても、楽しく会話出来ている事が大切だと学ぶことが出来ました。

6日目のロンドン散策ではロンドンアイ、ビッグベン、バッキンガム宮殿やハリーポッターで有名なキングスクロス駅などたくさんの場所へ行きました。私はピーターパンとハリーポッターが好きなのでロンドン散策はとても楽しみにしていました。市内の移動は地下鉄だったので、人混みや慣れていない海外の地下鉄に乗る時は大変でした。その日は天候が悪い時がありましたが、とても楽しかったです。

私は、言語の壁の他にイギリスの食事が不安でした。イギリスの食事は美味しくない

と言われる事が多いと感じていたし、噂もたくさん聞くので正直不安でした。ですが、朝食に食べたパンもホストファミリーが作ってくれるご飯もとても美味しかったです。 私は2日目に食べたチキンカレーが好きで、お腹いっぱい食べること、家庭料理を食べることが出来たので嬉しかったです。3日目はホストファミリーとフィッシュアンドチップスを食べに行きました。そのお店ではとてもサイズが大きくて量も多いので食べ切れるか不安でしたがイギリス料理は美味しく食べることが出来ました。

最後に、この10日間をイギリスで過ごし、言語を学ぶだけではなく、木ストファミリーと生活し、BSDCに通うことによって、文化を知ることが出来ました。また、最初は聞き取ることが難しかった訛りがあるイギリス英語も少し理解する事が出来始めるようになったので、最初は言語の壁にぶつかって1日1日が長く感じていたのも最終日には「あっという間だったな」、「まだイギリスに居たいな」と、思えるようになっていました。イギリスへ行くにあたってホームステイ先での生活、日々の食事、聞き慣れていないイギリス英語など不安な事がたくさんありましたが、イギリスに着くと日本とは違う見慣れない街並み、目に映るもの、景色など全てが新鮮でキラキラして見えていました。不安な事はたくさんあっても、10日間は私にとって本当に良い経験をする事が出来たと思います。今回の活動で英語に以前より興味を持ち、好きになることが出来たので、もう1度イギリスに行きたいと思いました。今後の学校の授業はもちろん、将来や生活に活かしていきたいです。この活動に参加出来て良かったです。ありがとうございました。





9 足助高等学校 山岡 紅留未

(1) ホストファミリーの紹介

私は Julie さんのお宅にお世話になりました。ホストマザーである Julie さんは犬のスパイクと2人で暮らしています。家は街から外れた小さな村にあり、BSDCまでは車で30分から40分かかります。Julie さんは家の近くにある事務所で働いています。

他の方と2人で個人事業を行っていて、今は田舎の方の企業や活動団体を応援し、成長をサポートする活動を行っているそうです。

Julie さんはとても素敵な人柄の持ち主で、笑顔の絶えない優しい人でした。初日のホテルにお迎えに来てもらって初めて会うとき、本当に緊張していましたが、すごく笑顔であいさつしてくれて、とても優しくてすぐに緊張が解けるほどでした。その後すぐに一緒に散歩に行きましたが、私たちが英語を話すのに苦戦したり、うまく聞き取れなかったりしても、ゆっくり分かりやすく言ったり、ジェスチャーをつけたりと工夫してくれて、とても嬉しかったです。

いつも手作りでごはんを振舞ってくれて、イギリスならではの料理や調味料もたくさん紹介してくれて、挑戦させてくれました。私のお気に入りだった Tea loaf は、お昼ご飯に持たせてくれたり、作り方も教えてくれて、レシピを書いて渡してくれました。

ホームステイ3日目には少し日本語を教えてあげました。「いただきます」と「ごちそうさま」の二言でしたが、嬉しそうに言っていてとても幸せな気持ちになりました。



(2)派遣を通して学んだこと

今回のダービーシャー高校生派遣が私にとって初めての海外でした。不安と緊張がとても大きく、初日からホームシックになりかけていて、この期間を乗り越えられるかわからないと思っていました。日本の友達からもらった応援メッセージを何度も何度も読んで緊張をほぐそうとしましたが効かないほど緊張と不安でいっぱいでした。しかし、不安ながらに現地の人や派遣生の仲間とのコミュニケーションを大切にし、積極的にいけるよう励みました。その結果、とても貴重で素敵な体験が出来たなと、今身に染みて感じています。

私はイギリスの街を見て、1番に建物の美しさに圧倒されました。映画で見るような統一感のある綺麗な茶色い街並みが広がっていて、とても美しかったです。日本の神社やお寺も美しいですが、その美しさとはまた違う美しさの建物がたくさんありました。中でもプログラムの中で訪れたコークアビーとバクストンでは、イギリスらしい繊細な装飾を見ることが出来ました。バクストンではバクストンの水についての歴史を、プロジェクターや立体音響を使った近代的な方法を用いて説明されていて、とてもわかりやすく、楽しかったです。

私はイギリスに行く前、料理が美味しくないということを聞いていて、あまりご飯が楽しみではなかったです。しかし、初日にホストマザーが作ってくれたプライマンズラ

ンチが美味しすぎて感動しました。それから学食やロンドンでのご飯が楽しみになりました。ホストマザーの料理はどれもおいしくて、イギリスならではの料理をたくさん作ってくれました。イングリッシュブレックファーストやサンデーローストなどさまざまな料理を経験することが出来ました。サンデーローストにかけたソースが美味しすぎてホストマザーに質問したらグレービーソースだよ、と言われ、作り方を聞きました。スーパーで買えるグレービーソースの素で作っているといい、後日お土産にとその素を買ってきてくれました。その素を使って日本でも作りましたが、イギリスで食べたのと変わらないくらい美味しかったです。学食で食べた初めてのフィッシュアンドチップスもとても美味しくて最高でした。

日本にはおもてなしの文化や礼儀をしっかりする文化があって人が温かいと思われ ていますが、私はイギリスの方が人の温かさを感じることが出来ました。イギリスでは 気軽に「Hello」などと知らない人に声をかけることもたくさんあって、笑顔でフレン ドリーな感じで話しやすかったです。日本は知らない人とあいさつをあまりしなかった り、あいさつ代わりに会釈で終わらせたりと、イギリスに比べて言葉が少ないなと感じ ました。最終日にみんなで学食を食べている時に、ある生徒の方が大量にお菓子を持っ てきてくれて、みんなにプレゼントしてくれていました。日本人は謙虚な一面があり、 なかなか自分から率先して貰いに行くなどをする人は少ないですが、その方は「Don't be shy, Don't be shy」と言って楽しそうに配っていて、本当に人柄が良くて素敵だな と思いました。1番驚いた出来事が、初日のホテルを出る時、初対面の人に「oh, nice bangs!!!」と前髪を褒められて、周りの人もそれな〜みたいなテンションで笑って盛り 上がっていたことです。日本は容姿に対して厳しくさまざまな偏見があると感じている ため、どうしても外を歩く時は他の人からの評価を気にしすぎるがゆえに、容姿を気に しすぎてしまっていて、自信を持つことができませんでした。しかし先ほどのエピソー ドの影響もあってかイギリスでは日本より気楽に過ごせました。日本も、私の感じたイ ギリスのように気楽に過ごせるような国になってほしいと心から思いました。このよう な出来事を通して日本の良さにも悪さにも改めて気付かされた気がします。

私は今回の派遣を通して「笑顔」の大切さを学びました。言語の異なる人たちに 1 番伝わるのは表情だからです。例え英語が完璧に話せなくても、笑い合えたら心が通じると感じました。カルチャーショーの日、私はホストファミリーが同じだった友達と複数のホストファミリーとでご飯を食べました。他のホストファミリーに会うのは初めてだったので、楽しくご飯を食べられるか不安でした。それでもホストファミリー同士が話している会話を聞いて一緒に笑って、リアクションして、自分からも話していくうちに仲良くなれました。話したのは拙い英語ばかりでしたが、なんとなくみんなに伝えられることができました。絶えない笑顔と過ごしているその場が本当に楽しくて本当に素敵な時間となり、最高の思い出になりました。

もともと笑顔が苦手だった私にとって、イギリスのポジティブなマインドや陽気な方々と触れ合うことはとても貴重な刺激になりました。日本に帰ってきて1週間たった今も笑顔で人と接することができています。

今回この派遣に参加できて本当によかったです。派遣を通して学んだことや感じたことを深めると共に、 笑顔の大切さや積極的な心構えを忘れずこれからの将来に活かせるよう、自分の中で今回の経験を一つ一つ思い出し、大切にしていきたいと思います。また、さらなる英語力の向上のために勉強にも一層力を入れていきたいと思います。ありがとうございました。



10 豊田北高等学校

藤野 莉子

(1) ホストファミリーの紹介

私がお世話になったウォッシュブルック家のメンバーは父親のジムさんと母親のルイーズさん、お姉さんのメーガンさん、弟のハリー、韓国から留学で来ているボウワ、犬のハーリーとメイベルです。ルイーズさんはとても優しく、私が上手く英語を聞き取れない時は別の言葉に置き換えたり具体例をあげたりして私が理解するまで何度も伝えてくれます。そのおかげでホストファミリーと沢山会話が出来、イギリスのことや日本との違いを知る事ができました。ジムさんはとても陽気で明るく頼りになる存在です。いつも困っている事はないかと気にかけてくれたため、分からない事や困っていることを躊躇わずに伝える事ができました。ハリーは面白く明るい人です。一緒にゲームをし

たりその日のことを話したりする時によく使うフレーズや単語を教えてくれました。学校で習うような主語述語を意識したものではなくイディオムや淡々とした発言が多く学ぶ事が多かったです。メーガンさんは私と真摯に向き合ってくれました。私がイギリスの事を質問したり日本の文化を伝えようとしたりした時のことです。私が伝えたい事をすぐに英語に変換する事ができなくても最後まで話を聞き、分からない部分は質問をして私の話を理解しようとしてくれました。会話の後は上手に英語を話せていたよと褒め



てくれたため自分の語学力に自信を持てました。ボウワはとても親切で優しい人です。 バスの乗り方や韓国のことなど沢山のことを教えてくれました。ウォッシュブルック家 はとても温かく、素敵な家族でした。

(2)派遣を通して学んだこと

私はこの派遣事業に参加するまで海外を訪れた経験がありませんでした。そのため、 文化や習慣はもちろん価値観などの日本とイギリスの相違点を知るため、そして自分が 今まで勉強してきたことがどのくらい通用するのかを知るためにこの派遣事業に参加 しました。イギリスで過ごした約10日間は何をするにも新鮮で学びがあり、とても充 実した日々でした。その中でも強く衝撃を受けた学んだ事は二つあります。

一つ目は難しく複雑な英語を使わなくても良いという事です。私がイギリスで過ごす中で話した事のほとんどが義務教育中に学んだ事でした。もちろん副詞や形容詞を知っているほど話の情報量が増えて伝わりやすくなり、文法や単語を知っているほど色々な話題を様々な言い回しで話す事ができます。実際に私が派遣前に覚えたイディオムや英単語は現地の方と会話をする際に役に立ちました。しかし、日常的な会話の中でより必要とされたのは基本的な文法ばかりでした。分からない事を聞いたり何かをお願いしたり、自分の気持ちを伝える事ができれば十分海外でも生活できると分かりました。自分が今まで学んだ事を使って話し、現地の方がそれを理解してくれた時は本当に嬉しかったです。現地の方と会話が出来て達成感を感じた反面、単語や表現の細かいニュアンスをあまり考慮できていなかったように感じています。BSDCでジョン先生の英語の授業で公的な挨拶と私的な挨拶の違いを学びました。日本語のように尊敬語、謙譲語、丁寧語と明確なものはなくても、状況や場面、相手との関係性に応じて表現を変える必要があると学びました。今まではただ自分が伝えたい内容を正しく伝える事を重視していましたが、これからは似ている意味の単語や熟語がどのように違うのかまで覚えて使い分けられるように勉強しようと思います。

二つ目は人を頼っても良いということです。この派遣に参加する前までは困った事があれば自分で解決するか親しい人にだけ頼るようにしていました。迷惑をかけてしまうことが申し訳なく、十分なお返しを出来るかも分からなかったからです。そのため最初はホストファミリーと過ごす時間やこの派遣事業に関わり支えて下さっている方にはあまり迷惑や面倒をかけないようにしようといつも気を引き締めていました。しかし、私が出会った人たちはみんなとても親切で優しく温かい人ばかりでした。困っている事はないかと何度も聞いてくれたり、何に困っているのかを上手く説明できなくても理解しようと真摯に向き合い最後まで話を聞いてくれたりしました。私が親しくない人でも頼って良いと学んだ出来事の中で一番困った出来事はロンドンの地下鉄で乗り間違えてしまったことです。電車を乗り間違えているかもしれないと気づいた時は目的地にたどり着けるかどうか不安と焦りでいっぱいでした。アナウンスは早くて聞き取るのが難

しく、電光掲示板にかかれる英語を読んでも路線図が複雑で読み取れませんでした。そ の時に同じ電車に乗っていた現地の方を頼る事にしました。近くの席に座っていた方に 聞いてみると案の定乗っていた電車は間違っていたことが分かり、正しい電車とその電 車で何駅分乗れば目的地にたどり着けるかを丁寧に教えてくれました。そのおかげで無 事に目的地にたどり着くことが出来ました。また、ホストファザーのジムさんが何度も 私にかけてくれていた言葉があります。それは「君はまだ凄く若いから、周りをもっと 頼って良い」という事です。私が何かをお願いする時や上手く伝えられなくて申し訳な いと感じている時、気を引き締めている時にも「もっとリラックスして、頼って良いか ら」と何度も声をかけてくれました。ジムさんの温かい言葉や現地の方の優しさのおか げで初めて会った人でも頼って良いことを学ぶ事ができました。この派遣事業を通して 学んだ事は他にも沢山あります。世界遺産に登録されている場所や初めて飛行機に乗っ て見た雲の上の景色は写真で見るよりもはるかに美しく壮大でした。そして訪れた場所 を案内して下さった方々のおかげでただ観光するだけでなく歴史も学ぶ事ができまし た。食事や入浴、ホストファミリーと過ごす時間など些細なことからも文化や習慣を体 験でき、現地の方と交流を深め、多様な価値観に触れるにつれて自分の価値観も広がっ ていくことを感じました。語学力だけでなく主体性や行動力も向上し、とても充実した 日々でした。今回の派遣事業を通して学んだ様々な事を友達や家族にも伝え、知っても らいたいです。そして、次に海外を訪れる時はより適切な言葉で正確にコミュニケーシ ョンが取れるように勉学に励み、語学力の向上に努めようと思います。







11 豊田南高等学校

保坂 早映

(1) ホストファミリーの紹介

私のホストファミリーはホストマザーの Elaine とホストファザーの Hefin です。 Elaine は明るくフレンドリーで、いつも私たちを笑顔で迎え入れてくれました。Hefin はジョークをたくさん言っては場を和ませ、私たちに笑顔をくれました。Elaine は今までに30人ほどのホームステイを受け入れていて、過去に受け入れた生徒たちの話をた

くさんしてくれました。生徒たちにもらった手紙やプレゼント、一緒に撮った写真をたくさん見せてくれるなど、とても心温まる家族です。Hefin はウェールズ出身で Elaine とは少し英語の発音が違うけれど、2人とも私たちが聞き取れるようにゆっくりと話してくれました。

1日目はホストファミリーと過ごす日で、大学近くのショッピングモールや、イギリスでは有名なナローボートがたくさんある場所に連れて行ってくれました。最初は緊張してなかなか話すことができなかったけれど、慣れてくるとうまく会話もすることができるようになり、毎回の食事後にみんなで楽しく話す時間が大好きでした。1番の思い

出はお好み焼きをペアの子と一緒に作ったことで、2人ともすごく喜んで食べてくれてうれしかったです。「okonomiyaki」と2人で何度も発音を練習している姿はかわいかったです。最終日にはみんなで撮った写真をプレゼントしてくれました。毎日楽しく過ごすことができ、とても素敵なホストファミリーでした。



(2) 派遣を通して学んだこと

私は今回の派遣を通して日本では体験できないことをたくさん学びました。海外の方と直接お話をする、という何気ないことも私にとって特別な体験となりました。

私は最初イギリスでの慣れない環境についていくことができるのか、不安ばかりでした。長い時間をかけてようやくイギリスに着き、ホテルでドキドキしながらホストファミリーと会えるのを待っていました。その日はホストファミリーが私をいろいろな場所へ連れて行ってくれました。イギリスに着いて間もなく、ご飯も景色も私にとって驚くことがたくさんありました。中でも、私のホストファミリーが全く知らない人と友達のように話していることに驚きました。また、お店の駐車場が満車で止められないときには、私のホストファザーが車の窓を開け、「ここは空いていないよ」と新しく駐車場へ入ってくる人に教えてあげていたことも驚きでした。日本ではなかなか見ることのできない光景だと思いました。イギリスの人はみんなフレンドリーで、誰とでもコミュニケーションをとるのが上手だと思いました。一方で私は初めてホストファミリーと会ったとき、緊張してなかなか自分から話すことができませんでした。正直イギリスの人のように、英語でのコミュニケーションを楽しめていませんでした。質問の中にも私の知らない単語がたくさんあり、上手く返すことができず悔しい思いをしました。けれどホストファミリーが「何でも質問していいよ」と優しく声をかけてくれました。そして、会話を繰り返していく中で徐々に慣れていき、分からないことや知りたいことを自分から

質問することもできるようになりました。そんな自分を変えてくれたのも、私のホストファミリーや BSDC の生徒さんなどの助けがあったからだと思います。イギリスでたくさんの人と触れ合っていく中で、みんなが私の英語を最後まで聞いてくれました。自分の言いたいことがなかなか伝わらないときも、頑張って理解しようとしてくれました。最初は自信がなく、聞き取ることに必死で笑顔を作る余裕もなかったけれど、みんな私が理解できるようにゆっくりと何度も繰り返し話してくれたり、ジェスチャーを使って伝えようとしてくれたりしました。そして最後には笑顔で会話をすることができました。特に自分の言いたいことが相手に伝わったとき、英語でコミュニケーションをとる楽しさを感じました。それと同時に、思いやりを持ちながら人と関わっていく大切さも感じました。

また、日本の文化についての理解も深めることができました。家でカルチャーショーの話をしたとき、ホストファミリーがイギリスでの遊びについて教えてくれました。その中でもあやとりがイギリスでも遊ばれていることに私は驚きました。私は日本だけで遊ばれていると思っていたので、文化の違いだけでなく共通点も見つけることができ、新たな発見となりました。実際にカルチャーショーではホストファミリーが来てくれて、2人に折り紙で箸置きと兜の折り方を説明しました。私のホストファザーは慣れない折り紙に苦戦しているようでした。ホストマザーはこの2つを折った後にも、机の上に置いてあった箱を作りたいと言ってくれました。日本の文化について興味を持ってくれていたことが嬉しかったです。けれど、私はその箱の作り方を知らなかったので、もっといろいろな折り紙の折り方を知っていれば良かったなと思いました。私も箱の作り方をホストマザーと一緒になって友達に教えてもらいながら作り、楽しい思い出になりました。家に帰ると、作った折り紙をすぐに家に飾ってくれました。すごく喜んでくれていたので教えた側の私もすごくうれしかったです。

今回の派遣は短い期間でしたがとても充実した10日間でした。イギリスで見た景色 や体験したことなど、どれもはじめてのことばかりで夢のようでした。直接体験するこ とでしか学べないこともあり、私はもっと英語力を上げなければならないと気付かされ

ました。また、他の国の文化についてもっと知りたいと思うきっかけになりました。この貴重な経験を将来にもつなげていきたいと思います。今回の研修をサポートしてくださった方々、両親にも感謝したいです。ありがとうございました。





12 豊田高等学校 濱中 美羽

(1) ホストファミリーの紹介

私はホストマザーの Elaine、ホストファザーの Hefin にお世話になりました。二人 ともとてもフレンドリーで面白い方でした。Elaine は何度もホームステイを受け入れて いて私たちで31,32人目だと言っていました。そのため、いつも分かりやすい英語 でゆっくり話してくれました。Elaine は写真がとても好きでリビングやダイニングには 家族の写真などがたくさん飾ってありました。Hefin はジョークをよく言っている面白 い方でバイクがとても好きです。Hefin はイングランド出身ではなくイギリスの中にあ るウェールズというところの出身です。Elaine はイングランド出身なのでイングランド とウェールズの2つの国の文化や言語などについて学ぶことができました。イギリスと 言っても4つの国があるので各々に特徴があります。ウェールズとイングランドで英語 のアクセントに違いがあったり、文化にも違いがあったりすることを教えてもらいすご く勉強になりました。ホームステイの2日目に毎日その日にあったことを書いてねと言 って渡された日記ノートには、過去にホームステイをした生徒達が書いてきた思い出が たくさん残されていました。私もその日記ノートにホームステイをした6日間の思い出 をたくさん書きました。日本の生徒さんもたくさんホームステイをしていたのでホスト ファミリーの二人とも日本が好きです。特に Elaine は抹茶がとても好きでコーヒー・ 紅茶と一緒に抹茶オレを家に常備していました。そのため日本からお土産で持っていっ た抹茶味のお菓子はとても喜んでくれました。私たちを受け入れてくれた二人には感謝 の気持ちでいっぱいです。



(2)派遣を通して学んだこと

私がこのダービーシャー派遣に参加しようと思った一番の理由は自分の限界に挑戦してみたかったからです。今回の派遣が私にとって初めての海外でした。小さいころから英会話教室に通っていたこともあって海外に行ってみたいという憧れはずっとありましたが、挑戦する勇気もなくなかなか行動に移せずにいました。しかし、自分の力を

確かめたいという思いから応募することにしました。面接を行い、いざ派遣生に選ばれたときすごく不安になりました。私はコミュニケーションをとることが得意な方ではないので、実際に派遣に行ったときにうまくやっていけるのかという不安を抱えたまま飛行機に乗り込みイギリスへと向かいました。長いフライトの中で、せっかく貴重な機会を頂けたのだから「悔いの無いような時間にする」という決意を固め、自分から積極的にコミュニケーションをとりに行くと心に決めました。イギリスに着いたときは夜中だったのでその日はホテルに宿泊しました。ホテルについたときはやっと着いたという気持ちもありましたが、明日からやっていけるのかという不安が大きかったです。しかし、後悔のない時間にすると決めたからには積極的に色々なことにチャレンジしようと思っていたので、短い派遣期間でしたが充実した時間を送ることができました。また、今回のダービーシャー派遣でいろいろなことを学ぶことができました。

一つ目に学んだことは、コミュニケーションをとるときに大事なのは伝えようとする気持ちだということです。最初の頃は聞き取ることに精一杯で、仮に聞き取れたとしてもどう返事をしたらいいのかうまく言葉が出てこなくて会話が全然できなかったです。でも、いろいろな人と会話をしていくうちに正確な英語を話そうとすることよりも伝えようとする気持ちが一番大切だということに気づきました。正確な英語が話せた方が正しく相手には伝わると思います。しかし、私は語彙力が多くないので正確に話そうとすればするほど話せなくなってしまっていました。そこで思い切って文法とかはとりあえず置いておいてなんとか伝えようという気持ちでコミュニケーションを取るようにしたことで、正確に話さないといけないと思って会話をしていた時よりも相手とスムーズに会話をすることができるようになりました。伝えたいという気持ちがあれば相手もこちらの言いたいことを最後まで聞いてくれたり、なんと言おうとしているかを汲み取ってくれようとしたりするので、Yes No だけの会話ではないコミュニケーションをとることができました。

二つ目に学んだことは、思いやりの精神はどこの国でも共通だということです。よく日本人は思いやりがあると言われているということを聞いていたので、海外ではどうなんだろうと疑問に思っていました。いざイギリスでの生活が始まり、私は衝撃を受けました。なぜなら日本よりも、思いやりの精神を持っている人が多いと感じたからです。扉などを通るときに先に通してくれたり、扉を開けておいてくれたり、常に大丈夫などと気遣ってくれたり、たくさんの人が当たり前のように行動していました。特に記憶に残っているのがバスを降りるときにほとんどの人が「Thank you」と言っていたことです。私にとってはこれが一番衝撃的でした。日本でもバスを降りる際に「ありがとうございました」と言っている人がいないわけではないですが、全員が言っているということもなくむしろ言っている人の方が少ないのではないかと思います。イギリスでは感謝は当たり前で全員が意識しなくとも行動しているところに、日本のみではなく思いやり

の精神はどこの国の人でも持っているということを学びました。

また、この派遣を通していろいろな力を身に付けることができました。コミュニケーション能力などいろいろありますが、特に英語力はこの派遣に参加しなければ身に付けることが難しかったと思います。学校などでリスニング、リーディング、ライティング、スピーキングを勉強しますが、リスニングやスピーキングの力はどうしても学校の授業では身に付きづらいなと感じていました。しかしイギリスでは、常に英語が飛び交う状況の中で生活していくので、自然とリスニング力が上がっていくのが実感できました。初めの頃は聞き取ることができても半分以上理解できていなかったですが、一週間もすれば聞き取ったことの大体の内容を理解できるようになりました。また、毎日現地の人たちの英語を聞き会話をしていくので、自然とリスニング力、スピーキング力を身につけることができました。

最後に今回この派遣を通して学んだコミュニケーションをとるときには伝えようと する姿勢が何よりも大事だということをこれからの生活でも生かしていきたいと思い ます。また、この派遣期間で自分の殻を破り限界に挑戦することができたことで自分に 自信を持つことができました。これからもこの貴重な経験を活かしていきたいと思いま す。





13 豊野高等学校

自我 隼太郎

(1) ホストファミリーの紹介

僕のホストファミリーはモニカという女性の方でした。僕自身、初めての海外派遣ということもあって、ものすごく不安と緊張でいっぱいでしたが、彼女と初めて会った時、「緊張せずにここを自分の家だと思ってね。ゆっくりしていってね。」と優しく気遣って声をかけてくれました。僕はその言葉のおかげですごく救われたのを覚えています。

また、モニカは家で野菜を育てることやイギリスでは有名なサッカーを観戦することが大好きで、僕はモニカが育てている野菜を夕食で食べさせてもらったり、一緒にお菓子を食べながらサッカーを観ました。その中で、気になるサッカー選手について英語を使って質問をしてみたり、海外ならではのリアクションをしてみたら、とても場が盛り上がり、いつの間にかモニカと楽しく過ごせていました。一方、僕は食生活に一番不安を抱いていましたが、毎日欠かさず、フレッシュで気持ちが安らぐような紅茶を出してくれたり、また日本とは違った美味しい感覚を味わえる料理を出してくれて、本当に感謝しかないです。モニカと出会えたことで、海外の文化や習慣を知ることができ、コミュニケーションをとることに対しての考えが変わり、日本に帰ったらもっと積極的にコミュニケーションを取っていこうと思えました。また絶対にイギリスに行きたいです。モニカさん、最高な経験をありがとうございました。楽しかったです。



(2)派遣を通して学んだこと

僕は海外に行くのが人生で2回目でした。はじめは外国人と上手く話せるのかな、大きく違う文化に悩むことなく生活することは出来るのかなと、とても不安と緊張を抱えながら、約25時間のフライトを経てイギリスに着きました。そして着いてからすぐにホストファミリーと会いました。ホストファミリーのモニカという方がものすごく親切で、どこかおばあちゃんのように感じる温かさでした。ホストファミリーの家では特にルールは無く出会った時に、「ここを自分の家だと思ってゆっくりしていってね。」と声をかけてくれたおかげで、緊張が解れました。そして会話を弾ませていくうちに段々英語が上達していき、最後には初日と比べフレンドリーにそして滑らかに英語を話せるようになりました。

モニカの家で、日本とは違う文化や習慣を学ぶことが出来ました。日本ではまず家に帰宅したら、すぐさま「手洗い」や「うがい」をするのが、イギリスでは真逆で「手洗い」や「うがい」をせずにご飯を食べたり、テレビを見ていたことに衝撃を受けました。 そこで「手を洗わなくてもいいんですか」と僕は聞きました。すると「そのままでいいよ。」と返ってきました。日本は逆に気にしすぎなのではないかと感じました。なので 洗剤や水道代を節約するという面でも、使いすぎないように気をつけていきたいと思いました。

そして、なんといっても僕はバスに困りました。はじめに、僕はモニカから大学への道や乗るバスを教えてもらいましたが、実際自分たちで電子掲示板を読み、時間を把握しながら乗ろうとしてみたら、日本とは違い、バスが時間通りに来なかったり、種類が多すぎてとても現地以外の人では、到底すぐに理解することが出来ないようでした。ですが、勇気を出してバスの運転手さんに「このバスはどこに向かいますか」などスマホの GPS を使って声をかけたところ、「このバスに乗ればいいよ。ちゃんとバス停で止まるから安心して。」と優しく笑顔を見せながら、親切に教えてくれました。そして降りるときもこちら側が感謝を伝えるべきなのに、わざわざ運転してくれた運転手さんが「Thank you.」と言っていて本当に感動しました。こういう感謝を多く伝えることや、周りの人の目・時間を気にすることなく接してくれるのは、日本人も参考にしていくべき所であり、見習うべき点だなと感じました。

また、僕たちにいかなる時もついてきてくれて、たくさんのことを教えてくれた現地の大学生の方々も、とてもフレンドリーかつ優しく接してくれました。昼ごはんの時、仲良く喋れるかなと思っていましたが、向こうの方から「ここの席座ってもいい?」と話しかけてくれて最初はやはり会話が難しかったですが、時間が経つにつれアニメの話や家族構成やその人はどんな方なのかについて話したりして、とても場を盛り上げてくれました。そのおかげもあってか、話すだけでなく、イギリスならではの少し難しい表現を使えるようになったり、英語を早く正確に聞きとることが出来るようになり、自分の英語力の成長を身に染みて感じました。

すごく1日1日が充実していて、いつの間にか帰国する所まで来ていた、という10日間でしたが、ここまで来れたのは多くの方々のおかげです。感謝しかないです。また、今回の派遣で学べたことを、将来の自分に活かしたいと思います。そしてまたイギリスに帰りたいです。最高な経験を本当にありがとうございました!







14 杜若高等学校

(1) ホストファミリーの紹介

私のホストファミリーは一人暮らしの女性ミセス.ロウです。彼女は私たちの滞在が 居心地の良いものになるようにしてくれました。私たちが会った日、彼女は学校の場所 と私たちが使うバス停、家の紹介をしてくれました。彼女はヨガや散歩をよくしている と言いました。彼女と一緒にヨガや散歩をしたいと思った私は勇気を出して「やってみ たい。」と言うと彼女は嬉しそうに「良い」と言ってくれました。19日の朝、私たち は散歩をしました。20日の朝、私たちはヨガをしました。21日の朝、私たちは白鳥 に餌をやりに行きました。私たちは夜と朝しか会うことができませんでした。しかし、 彼女はその限られた時間でできるだけ多くのことをできるようにしてくれました。彼女 のおかげで私は散歩でイギリスの住宅の様子や自然を見られたり、イギリスの文化に触 れられたりできました。とても楽しめました。そして、彼女と親しくなれました。彼女 は私たちがいつ帰るのかを心配していつもメッセージを送ってくれました。夜ご飯の時 はいつも自分たちの1日がどうだったのかを聞いてくれました。一緒に笑ったり、何か 疑問に思ったことを聞くと分かりやすく具体的に説明してくれたりしました。一緒に沢 山話ができて嬉しかったです。朝食や夕食など、彼女は一切手伝わなくても良いと言い ました。しかし、私は手伝ってあげたいと思ったので、手伝うと彼女はとても嬉しそう に感謝してくれました。彼女がホストファミリーでとても嬉しいです。そして一緒に過 ごした時間はとても貴重で大切なものとなりました。彼女が私のためにしてくれたこと の全てに感謝しています。



(2)派遣を終えて

私は小さい頃からある夢がありました。それは、自分とは異なる国の人に沢山会ってお話がしたいという夢です。そんな夢が叶いました。ダービーシャー高校生派遣事業を通してイギリスへ行き、日本とは異なる建物や人々の様子をたくさん見ました。そして、異なった国と文化の人に沢山出会えました。それを通して新しいものの見方や感じ方を

学びました。それに加えて沢山の新しい視点が増え、前より視野が広がったと感じてい ます。BSDC で色々な人と出会って話しをした結果、そこにはイギリス出身の人だけで はなく、様々な国から来た人がいると知りました。このような人々はそれぞれ異なる文 化と言語を持つ国から来ていて、BSDC で勉強している内容や期間もそれぞれ異なりま す。そんな生徒たちと沢山話ができてとても嬉しいです。そのおかげで今まで自分が知 らなかった世界があると知りました。 ダービーシャーに来てから2年経つ人や、6年経 っている人、美術のコースを受けている人、美容師のコースを受けている人などがいま した。このようにいろんな人生の歩み方を知ることができました。そしてバートン市内 散歩や英国料理体験、トヨタ自動車との交流、ワークショップなど様々な体験を通して 新たにいろんなことに興味を持つことができました。様々な国から来た人がイギリスの 大学で英語を使って勉強していることを知り、自分もこの生徒たちのように海外の大学 に進学できるのかもしれないと思い、自分も海外の大学に進学したいと思いました。今 まではただの些細な夢だった海外の大学進学が可能性のあるものになった気がします。 私はまだ大人になってから人生で何をして生きていきたいのかわかりません。しかし、 留学に行く前に比べ、自分の未来の見方が変わりました。海外に行きたいとは思ってい ましたがイギリス派遣の前までは日本の大学に入り、日本で就職することになると考え ていました。しかし、イギリス派遣後の今、私は海外の大学へ進学し、海外で働きたい と思っています。それに加え、視野がとても広がりました。そして自分がやりたいこと を見つけられる日に近づいたと思っています。この経験をして変われた自分がいます。 人生では新しいことに挑戦し、触れることが大事だと感じました。この経験があったか らこそ私は新しい視点を沢山得られました。毎日、日常で英語を話す経験を通してやは り、自分は英語が好きであって、英語でコミュニケーションを取ることが楽しいと感じ ました。 この経験を通して自分自身についてももっと知ることができました。 そして体 験の前より自立と責任感が向上したと考えています。全く知らないところで集合場所を 決め、時間までに戻ってこれば良いという状況で時間に間に合うことが大変でした。間 に合うためにはいつも時間を確認すること、どこまで行けるのか考えること、何か問題 が発生すれば自分で考えて行動すること、そして、自分には分からないことがあったら 現地の人に聞くことが大切だと感じました。これらのことができた私たち派遣生は自立 心と責任感が向上したと思います。これからもこのことを生かして完全な自立心や完全 な責任感を身につけたいです。私はもともと新しいことに挑戦することが好きでした。 そのおかげで、イギリスでホストマザーが散歩やヨガをしていると言った時に勇気を持 って一緒にやってもいいか聞けたのだと思っています。そうして、散歩やヨガ、白鳥の 餌やりをするといった新しい経験ができました。イギリス派遣の前からやってみたいと いう思いで興味を引かれるものに挑戦していました。しかし、経験という意識をもって いませんでした。経験の大切さを知った今、これからはただ好きなことや興味を引かれ るものだけではなく、もっと沢山のことを経験するということを意識して挑戦します。

あまり興味を持っていなくても経験を通して好きになったり学びに繋がったりすると思っています。沢山の人と会って多くのことを学びました。そこから、新しい人と出会う大切さ、そして、人と人との繋がりの大切さを学びました。私がイギリス派遣でこんなにも多くの学びを得ることができたのは、沢山の人と出会っただけではなく、その人たちと山ほど会話をしたからです。異なった国の人と会って話をすることが夢でした。しかし、人と人との繋がりの大切さを知った今、日本でも沢山の人に会って話がしたいです。そして、それらの人と繋がりを持ちたいです。そして、何よりも新しく出会った人との会話を楽しみたいです。イギリス派遣で最も楽しかったことは新しい人と出会って会話をすることです。そんな思いがあり、私はやはり、人と会話をするのが好きだと感じました。ダービーシャー高校生派遣事業を通して数えられないほどの学びを得ることができました。得た学びは私の人生に大きな変化を生じさせると感じています。これらの学びは一生忘れません。このような素敵な機会と経験をくださった全ての人々にとても感謝しています。





15 豊田大谷高等学校

西田 美玖莉

(1) ホストファミリーの紹介

私のホストファミリーは、一人暮らしの Olga Rowe さんでした。私は英語があまり 得意ではないことを Olga さんとメールで話していたので初めて会ったときはゆっくり 話してくれたりわかりやすい単語で話をしてくれました。そのため、初めての海外で不安や緊張があったけれど少し和らぎました。また、日本から持ってきたお土産を渡したときはとても喜んでくれて私も嬉しくなりました。

私たちの1日は、一緒に朝活をすることから始まりました。朝6時前に起き、散歩や買い物に行ったりヨガをしたりしました。また、池に行き白鳥に餌をあげた日もありました。どれも私にとって Olga さんとコミュニケーションをとる大切な時間でした。

Olga さんはロシアの方でたまに訛りがあったので最初は混乱しましたが、この朝の時間のおかげで、徐々に慣れていき日に日に会話も増えていきました。

私たちは日曜日にホットケーキを一緒に作りました。私はあまりホットケーキを作ったことがなかったので上手くいくか心配でしたが、Olga さんがホットケーキを食べたとき「Nice!」と言ってくれて安心しました。また、水曜日にカレーライスを一緒に作りました。私は Olga さんからカレーライスを食べたことがないと聞き、口に合うか不安になりましたが、「It's good!」と言いながらたくさん食べてくれてとても嬉しかったです。

ホストファミリーのおかげで不自由なく過ごすことができ、楽しい思い出になりました。



(2)派遣を終えて

私にとってこのダービーシャー高校生派遣が初めての海外、初めてのホームステイでした。また、他の人に比べて英語に自信がなかったので、行く前から多くの不安や緊張がありました。しかし、ホストファミリーとメールでやり取りをする中で少しずつ楽しみも増えていきました。緊張とわくわく感が入り混じる中、乗り継ぎを含め約16時間のフライトを経て深夜にイギリスに着きました。長時間のフライトだったこともあり、その日はすぐに寝てしまいました。

次の日、ホストファミリーが迎えに来てくれました。そして、私たちはショッピングモールへ行き、買い物をしたりゲームセンターのようなところでゴルフをして遊んだりしました。初めて会ったときや車の中はとても緊張して上手に話すことができなかったけれど、一日中、共に過ごしたことで少しずつ緊張が解けていきました。

3日目からは BSDC への登校が始まりました。5日間、現地の学校に行ったことでたくさんの経験をすることができました。初日の英語講座はジョン先生が授業をしてくださり、クイズゲームや動画を使いながらの授業だったので、とても楽しくわかりやすく英語やイギリスのことについて学ぶことができました。その他にも BSDC ではアフタヌーンティー体験やトートバッグ作り、写真の編集をしました。また、英国トヨタ自動車の方に未来の自動車について英語でプレゼンをしたり、Calke Abbey や Buxton

の視察に行ったりしました。

イギリスの伝統的な文化であるアフタヌーンティーの体験では、実際に自分たちでスコーンなどを作ることができて楽しかったです。また、食べるときは、BSDC の生徒と一緒だったので、イギリスのじゃんけんや文化についてたくさん教えてもらえました。未来の自動車についてのプレゼンでは、私にとって初めての英語でのプレゼンだったので上手くいくか不安でしたが、自分の考えをしっかりプレゼン出来たので良かったです。

Calke Abbey とは昔の家がそのまま残されているところで、中には多くの剥製がありました。また、Buxton は水が有名で温泉地として知られているところです。そこでは昔、温泉を病気の治療に使われていたことを知りました。どちらもガイドさんが説明をしてくれましたが、専門的な用語が多かったので少し難しく感じました。

学校の最終日はカルチャーショーをしました。他の派遣生のホストファミリーとも会うことができ、色々な話をしてとても楽しい時間を過ごせました。

BSDC では常にバディと行動をしていたため、連絡先を交換したり一緒に写真を撮ったりしてとても仲良くなることができました。

毎日学校から帰ると、ホストファミリーの Olga さんが「今日は学校で何をしたの?」と聞いてくれて、たくさんお話をすることができました。私は自分から話しかけるのに自信がなかったので嬉しかったです。毎日、Olga さんと話す中で徐々に自分から話しかけたり、自分の考えをしっかり伝えられたりできるようになりました。そして、ホストファミリーとのお別れの日に、私の英語の上達を Olga さんが褒めてくれてとても嬉しかったです。

イギリス最終日は、ロンドンのいろいろな観光地に行きました。日本と比べていろいろなものがとても大きく圧倒されました。ロンドンを訪れた中で私のお気に入りの場所は、グラフィティ・トンネルです。ここは全長300mのトンネルで誰でも自由に壁や天井にペイントできるところです。個性豊かでいろいろなジャンルの絵があって見ていてとても楽しかったです。日本にはあまりないような場所だったのでずっと見ていられるようなところでした。

最後に、イギリスの様々な文化に触れたり現地の人と直接話したりすることで、日本では感じることや学ぶことができないことをたくさん体験でき、とても良い経験になりました。 英語ばかりの国で 10日間過ごして特に思ったこと、感じたことが 2つあります。

1つ目は、何事にも失敗を恐れずに行動するための一歩を踏み出す勇気が大切だということです。私は最初、不安が多くこの派遣に応募するかとても迷っていました。しかし、少し勇気を出して応募し、実際にイギリスへ行くことで共に高め合える仲間と出会うことができ、とても充実した10日間を過ごすことができました。そして、一生忘れられない思い出を作ることができました。

2つ目は、私はいろいろな人に支えられているということです。私がこの派遣に参加でき、貴重な経験ができたのは両親や学校の先生、豊田市の職員、BSDCの先生や生徒、ホストファミリーなど多くの方々が支えてくれたからです。また、この派遣中も一緒に行った派遣メンバーや引率の先生、職員の方にとても支えられていることを実感する機会が多くありました。これからもたくさんの人に支えられながら生きていくと思うので、感謝を忘れず生きていきたいと思います。

イギリスで過ごした10日間は今までで一番濃い時間でした。この経験をこれからの 学校生活に活かし、将来に繋げていきたいです。ありがとうございました。







引率教諭 豊田高等学校

澤田 直美

(1) BSDC での活動

BSDC の先生方や生徒たちはとても優しくフレンドリーで、常に生徒たちを気遣ってくれました。プログラムの内容も豊富で、初日の英語の授業から始まり、アフタヌーンティー体験、トートバッグ作り、写真の加工等を現地の生徒たちとの交流を深めながら、楽しむことができました。最初のうちは英語を聞き取ることに苦労したり、話しかけるのに緊張している様子も見かけましたが、日を追うごとにコミュニケーションを積極的に取ろうとしている姿が増え、頼もしく思いました。バディーと呼ばれる学生は、Calk Abbey 観光の付き添いやプレゼンの原稿の準備等を手伝ってくれる等、生徒たちと交流することが多く、1 週間の最後にはとても仲良くなり、素晴らしい友好関係ができたと思います。またイギリスか日本のどちらかで彼らが再会できる日が来ることを望みます。

Calk Abbey と Buxton への半日観光は、イギリスの歴史に触れる機会となりました。 ガイドの方の説明や、展示物等の説明書きの中には難しい単語や表現が多く、理解する のが難しかったと思いますが、ガイドに自分から質問をしに行く生徒もおり、限られた 時間で積極的に成長していこうとする向上心が感じられました。

今回は、英国トヨタ自動車への訪問は叶いませんでしたが、BSDC にて事業内容を教

えていただきました。日本人のスタッフの方からは自分の国のことを良く知り、誇りに思ってほしいというお話をいただきました。今回の派遣の中で、イギリスの良さに気付くと共に、日本の良さに気付いた生徒も何人もいました。普段当たり前に感じていることがそうではないと気づくと、今までの日常を違った視点から見ることができると思います。今回の気づきから、日本のことももう一度振り返り、深く知る機会となればと思います。

(2) ホームステイ

とても温かく迎えてくださるホストファミリーの方々ばかりで、生徒たちはそれぞれ良い時間を過ごせた様子でした。イギリスでよく食べられている料理を用意してくれたり、パーティーや名所に連れて行ってくれたり、ホストファミリーの方々のおかげで今回の派遣が何倍も充実したものになったのではないかと思います。BSDCの最終日に行われたカルチャーショーでは、事前研修から準備をしていた日本のクイズや、折り紙や書道の紹介等を行いました。ホストファミリーと生徒の皆さんの様子を見ると、1週間という短い時間だったとは思えないほど仲良くなっており、温かい雰囲気が感じられました。日本の伝統の遊びや文化に興味深そうに参加してくださる現地の方々を見て、こちらもうれしい気持ちになりました。

今回のホームステイでは、言葉や文化の違いを超えて人の優しさに触れ、もっと英語で感謝を伝えられるようになりたいと話していた生徒もいました。言いたいことが英語で伝わった時のうれしさと同時に、伝えたいことを伝えきれなかったもどかしさも、これからの生徒の皆さんの成長に繋がっていくと信じています。

(3) まとめ

今回の派遣が初めての海外経験だという生徒も多く、到着前は不安や緊張、期待など様々な気持ちが入り混じったスタートでした。しかし、国際まちづくり推進課の近藤さんはじめ、BSDCの担当者のアンさんやケイティーさんたちが組んでくださったプログラムのおかげで、大変有意義な一週間を過ごせたと思います。「自分の英語が通じた!」という喜び、「もっと話したいのに…」という悔しさ、到着前とは違った気持ちが入り混じった帰国になったのではないでしょうか。

今回の派遣を通し、生徒の皆さんが学んだことで多く挙がっていたのは、積極性の大切さでした。自分でより多くのチャンスを掴み、成長していくには自分から動いていくことが必要です。BSDCやホストファミリーの皆さんは優しく、待っていても助けてくれることが多かったと思いますが、自分から話しかけたり、料理をして感謝を伝えたりと、自分から行動していた人も多くいました。そのことで得られた学びや感情はきっと印象深いものとなっていると思います。

さらに、今回の派遣で印象に残っていることのひとつに、生徒の皆さんのチームワークの良さがあります。日本ではほとんど面識がなかったにも関わらず、この一週間で本当に絆が強くなっていました。お互いの良さを活かしつつ、協力し合っている様子がと

ても微笑ましかったです。

私自身も大変貴重な機会をいただき、勉強になりました。海外で過ごすと、自分の中の当たり前が崩れるような感覚があります。今の日常に感謝し、多様な考えに触れていくことは大切だと思いました。また、海外という日本とは異なる点が多い環境の中で、大きく成長する生徒の皆さんの姿を頼もしく思いました。今後、ますます世界の壁が薄くなっていく中で、活躍する皆さんの将来を楽しみにしています。

引率教諭 豊田大谷高等学校

伊東 真由美

3月16日(土)~25日(月)、「ダービーシャー高校生派遣事業」に引率者の1人として参加させていただきました。事前研修から帰国まで、様々な経験をさせていただく中で、教員としての新たな気づきや多くの感動を得ることができました。大変貴重な機会をいただいたことに感謝し、派遣団の皆様、サポートいただいたスタッフの皆様に心よりお礼を申し上げます。

1. 事前研修について

出発前までに4回の「事前研修」が行われました。内容は、派遣事業に向けての簡単なオリエンテーション、ダービーシャー出身の講師による英語の授業、現地で日本文化を紹介する「カルチャーショー」の準備でした。顔を合わせる機会は少なかったものの、リーダー・サブリーダーを中心に生徒たちは自分たちで連絡を取り合い、カルチャーショーの準備をしっかりとすすめてくれました。高校生の行動力と団結力の素晴らしさを実感しました。

2. ホームステイでの様子

各ホストファミリー宅に1名~2名ずつお世話になる形でした。ステイ先の家族とは 事前に連絡を取り合い、とても温かく各家庭に迎え入れていただきました。笑顔の絶え ない温かいホストファミリーのおかげで、初めは緊張していた生徒たちも、あっという 間にダービーシャーでの生活になじんでいました。私自身もホームスティを通して、イ ギリスの文化や伝統に触れるとともに、何気ない生活の中でも一人ひとりが自然や環境 を大切にする高い意識を持っていることに感銘を受けました。

3. BSDC (バートン and サウスダービーシャー カレッジ) での活動

BSDC は、大学入試や就職に向けてスキルを磨く、日本の専門学校に似た位置づけの学校でした。映像や芸術、美容、調理等、様々な専攻があるのも特徴でした。派遣生徒たちは BSDC で英語の講座をはじめ、スコーンやサンドイッチ、テーブルセッティングを通してのアフタヌーンティー体験、イギリスの伝統的な古い建物が残されているコ

ークアビーやバクストンの街への訪問、デザインや写真編集などの授業を体験しました。その他、トヨタ自動車の現地スタッフに向けて「未来の車」というテーマでのプレゼンテーションを一人ずつ行ったり、訪れた街についての感想について BSDC 生徒に向けてグループで発表を行ったりする機会もあり、生徒たちの主体的な学びに繋がっていました。どの授業にもバディーと呼ばれる BSDC の生徒がサポートについてくれるので、生徒たちはとてもスムーズに BSDC での学びを深めていくことができました。生徒たちは英語力だけでなく、異文化コミュニケーションやチームワークといった力を磨くことができた様に感じます。引率教員にとっても、日本とイギリスの教育活動の違いやイギリス文化についての知識を深める貴重な機会となりました。

4. ロンドン市内観光

ロンドン市内観光は、BSDCからロンドンまでの移動時間が長く、厳しいスケジュールでしたが、参加者にとって楽しい時間となりました。特にビッグ・ベンやバッキンガム宮殿はロンドンでも人気の観光地であり、生徒たちはそれぞれ思い出の写真を撮りためていました。ロンドンの地下鉄やバスを利用して移動するという経験ができたのも大変良かったと思います。イギリスでの滞在時間が残り少なくなるにつれ、生徒たちからは「もっと長く滞在したかった」「将来、絶対にイギリスに留学したい」という声が多く上がってきました。

5. 全体を通して

ホームスティや BSDC でのプログラム等、市のスタッフの方々を中心に丁寧に計画してくださっていたと思います。ダービーシャーでは、BSDC のスタッフ・生徒たちが熱心にこのプログラムをサポートしてくださり、ここでの経験はどの生徒にとっても大変貴重な学びの機会となりました。またホームスティを通して、生徒たちは、聞き取り・会話ともに英語の力を磨くことができました。古き良き伝統を守りながら、新しい文化を取り入れていくイギリスの文化に触れることができたのも大きな収穫でした。参加生徒たちには、ここでの経験を生かして、それぞれの将来へと繋げていってもらいたいと思います。参加者全員が充実した10日間を過ごし、かけがえのない経験を得て笑顔で帰国できたことに感謝を申し上げます。ありがとうございました。

英語感想文

Reflections on experiences in Derbyshire, written by each student in English

Haruto Shibita

What I enjoyed most was the time I spent with my host family. It was my first homestay and I was very nervous. But my host family was always smiling and laughing, so before that made me relieved and I could enjoy our conversation. The most memorable part of my time with my host family was when we went for a walk in the park together. We went to a park with a big pond near our house, which is rich in nature. I don't usually go walking, but I really enjoyed the time we spent talking and walking together. We also watched a football game together and went shopping, and I really enjoyed each day I spent with my host family. On the last day, when I had to say goodbye, it was very hard. Thank you very much for giving me such a valuable experience. I will do my best using what I learned through the program in the rest of my life. The thing that impressed me is the culture show. A lot of people enjoyed it, and I could see a lot of smiles. We had prepared it for about three months before when we went to the UK. We talked about what we show and how we make time schedule at the studying workshop or SNS group. And then, we had some jobs themselves, like remembering how to make origami. I practiced dressing a kimono to someone for many times because I handled the kimono booth with my friend. At the culture show, I dressed a kimono to my host family, and they were pleased so much. I was so happy, and I thought my hard work paid off. The other booths looked successful because a lot of people enjoyed origami, ayatori (Cat's cradle in English) and calligraphy. The culture show was a good memory so that I will never forget it. Through it, I thought that Japanese traditional culture is fun for everyone, and I hope the people who will go to the UK next year will introduce Japanese interesting culture more.

Kotori Harada

I decided to go to the UK because I like to learn languages and I wanted to know the differences of English from the UK. I realized that it was different from the English I knew, and my host family taught that there are many types of accents of English. It was very interesting for me. Other than language, I learned many cultures in the UK. For example, food was surprising for me. I had heard English foods are not very tasty, but they actually were great. What I learned from them is that what I think of things is sometimes different from people. I learned many things and had a lot of fun. It was one of the most precious times in my life.

Kana Sugiura

The best one week

I could have many experiences in England. I was very fun during lunch time. It was very fantastic time to eat lunch while talking with my friends and BSDC students. It makes me feel more excited. I was happy because BSDC students talked to me. The woman and the bus driver helped me when I didn't know where bus stop was. They were very kind. I was relieved.

My treasures are the time of spending with my Host Family. They were very kind to me. I ate dinner with them and I talked about Japan, school and shopping. It was very fun. The last day, we went sightseeing in London. I was shopping with my friends. I saw London Eye, Big Ben and Buckingham Palace. They were very beautiful and I took many pictures. The flight took me very long time, but I made many wonderful memories. I would like to visit England again someday! Thank you.

Ryo Kawasaki

I was able to grow a lot through this Derbyshire High School student dispatch. I was a bit confused because the buildings, culture, food, etc. in England and Japan are completely different. On the second day in England, I started living with a host family, which was both nervewracking and exciting. My host family was very kind and welcoming. I was able to have various experiences at BSDC, such as experiencing British cooking, afternoon tea, and interacting with the staff of Toyota Motor Corporation. I was able to broaden my view of the world and was very stimulated through this stay in the U.K. I will treasure this experience for the rest of my life, as it is something that is not often possible.

Momoka Takahashi

This was my first time abroad and I was very anxious. But when I actually got there, my host family was very kind to me. Also, nature was abundant and sheep and horses could be seen easily. The food was also different from that in Japan, being mainly bread and meat, but it was good! What I liked best this time was the British cityscape. There were many beautiful houses made of red bricks, different from those in Japan. It was a great experience to learn about the British language, culture, buildings, and more about foreign countries.

Koh Saito

My best memory

I had a good time in England. My best memory is spending time with my host family. When I first met them, they welcomed me very warmly. When I gave them Japan souvenirs, they felt happy. They especially got interested in ninja goods. My host mother always said to me "How was your day after school? Did you have fun?" She was concerned about me. I like her thoughtfulness. And my host family let me experience British culture such as archery and snooker. I was able to have a valuable experience in this studying abroad. I thought it would be more fun if I could speak English. So, I decided to improve my English to expand my possibilities. I want to see my host family again after, I can use English more practically.

Koki Sugimoto

I was able to make friends across language barriers on this placement. I became friends with my friend through an anime called "Jojo". I felt that Japan's proud anime culture is amazing. My host family became my second parents and family. I will definitely go back to the UK again to thank them for their hospitality and to show them how much I have grown. I gained a deeper understanding of a culture that is different from Japan's. There were many fundamental differences, such as when to eat and drink tea, and which side of the road to walk on. For example, when I went to London, I saw a tunnel with spray art, which I thought was very interesting because it would never happen in Japan, and I enjoyed the completely different shapes and construction of the houses. I am very grateful to them both for the many experiences they have given me.

Rai Kawashima

The best memory

When I actually went to England and saw it, I was surprised by the types of cars that were running there, the cityscape, and the culture. The people of England were kind and my host family treated me like real family. Even though I am not good at speaking, my host family spoke slowly, asked me about the day's events, and helped me practice speaking English. I learned how difficult it is to communicate in English, which is a different language, and how difficult it is to understand different cultures, so I want to study English more and go see my host family again.

Kurumi Yamaoka

Through this project, I learned a lot and had a lot of fun. Above all, I was very happy to be able to go to Big Ben, which I had always wanted to go to. When I went to Calke Abbey and Buxton, I learned that although there are some similarities between today's Japanese and overseas cultures, the cultures of the past were completely different. I could gain and learn many things during this homestay. For instance, I was not good at communicate with people who I don't know. However, by talking with the members of this program. I became able to enjoy communication with them. I'm grateful to join this program. I want to remember this experience and make use of it in the future.

Riko Fujino

This student's trip was my first overseas trip. Therefore, at first, I was filled with anxiety, but as the local people I met were all kind, gradually I became relaxed and enjoyed my time there. Surprisingly, I was able to communicate without using difficult words or grammar. It was a great joy when what I said was understood using what I had learned before. Everything, from the food, customs, and culture I found them fresh and stimulating, and I felt like I was able to broaden my horizons in those exciting days. It was a really short period of about 10 days, but I was able to learn a lot. I am full of gratitude towards those who created this opportunity and supported me. I want to share what I have learned with my friends and family."

Sae Hosaka

In the overseas program in the UK, I'm grateful for the opportunity to learn about British culture. During afternoon tea, I had the chance to make scones. Then I enjoyed conversations with the BSDC students while eating sandwiches, scones, British tea. One of my fondest memories is making "okonomiyaki" for my host family, even though it was challenging. They loved it, making me happy and proud of Japanese culture. The people I met in the UK were incredibly kind. They always helped me when I struggled to express myself in English and encouraged me when I lacked confidence. I'm extremely grateful for such a wonderful experience, and I thank everyone who supported me.

Miu Hamanaka

I had a great time in the U.K. I met a lot of wonderful people there. My best memory is the afternoon tea. I wanted to try it, so I was happy to have such an experience. First, I learned about table setting with BSDC student. It was difficult for me because there was a lot to remember. But it was fun. Second, I made British scones and cut sandwiches. I'm not good at cooking but I was so excited. I enjoyed having tea, sandwiches, scones and cakes. I put cream and jam on the scone. It was delicious, so I love it. I had a lot of good experiences in the U.K. especially British culture. I want to visit the U.K. again.

Shuntaro Soga

Through this term, I realized the importance of communication skills and understanding different cultures. For example, when I take a walk, local people exchanged greetings every time they passed each other, and not only that, but they were also having fun talking with each other, which is something you don't see in Japan. The environment like this, I felt really comfortable. I felt strongly that it would be a lot of fun. So, I want to be more friendly and become a person who can interact positively with people! Also, I learned about food, clothing, shelter, the way people think about time, and at the same time, I realized how delicate and good Japan is. These experiences are very fulfilling for me.

Leticia Hirahata

Staying in Derbyshire was such a wonderful experience but really challenging. Since I was small, I have always had a dream to meet people from a different country and talk with them. Thanks to this program my dream came true. I was able to communicate with many friends and share a variety of ideas. Sometimes there were words which I couldn't understand but then when I asked their meaning, my friends taught them to me kindly. Meeting and talking with many people, I came to know many kinds of ways to see things, and my way of thinking expanded. My thoughts changed a lot after the program. My way of thinking about my future changed a lot too.

Mikuri Nishida

This was my first time abroad and my first time to experience homestay. So, I was very nervous. But this was a valuable and enjoyable experience for me. My best memory is the time I spent with buddy of BSDC. I didn't have confidence in English. Therefore, I felt anxious when I met them for the first time. But they were very friendly and easy to talk to. At first, I was just listening to them talk, but I gradually got used to English and could communicate. Also, I enjoyed eating lunch and going to different places with them. All of them became an unforgettable experience for me. I would like to thank all the people who supported me in my English journey. I know now that I definitely want to study English more than ever now. I want to meet everyone again. Thank you so much!

Naomi Sawada

This was the first time for some of the students to go overseas, so they may have had mixed feelings of anxiety and excitement before arriving in the UK. Throughout their experience at BSDC, students participated in various lessons, sightseeing and workshops. As time went by, students actively tried to start conversations with the students at BSDC. Communicating in English might have been challenging, but they seemed to enjoy it. I hope students will improve their skills in English even more after this trip.

During this trip, I was very impressed by students' bond. Even though they didn't know much about each other, they cooperated each other very well and overcame various challenges together. I hope all the experiences in Derbyshire and the UK will improve their lives more.

Mayumi Ito

As one of the chaperones, I participated in the program with the Derbyshire high school delegation from Toyota city. Through the program, we have had valuable experiences, which will be precious memories in our lives. This great opportunity of visiting Derbyshire has broadened my cultural horizons and it has given me new perceptions and impressions. I would like to give my sincerest thanks to everyone for involving students of the delegation, as well as supporting the staff and teachers from both cities.

1. Advanced training

We had advanced training four times, and during training, we received a short

orientation about Derbyshire and English lessons by a teacher from Derby city. Students prepared for a "culture show" which was an opportunity for them to introduce Japanese culture to people living in Derby city. Although they did not have enough chances to gather for meetings, they finished the preparation by themselves. I was really impressed by the leadership of students' leaders, and recognized the students' power of action and power of unity.

2. About home staying

One or two students each stayed with a host family respectively, and exchanged their information with their host families before the trip. Although many students were nervous when we first arrived, thanks to the warm hospitality and happy smiles from the hosts, the students got used to the UK way of life quickly. Through the home stay, I also experienced the traditions and culture of the UK and I have been profoundly impressed by their positive attitudes and high awareness towards nature and the global environment.

3. Activities at BSDC

BSDC is equivalent to a technical school in Japan, where students can prepare to enter universities or to brush up their business skills as apprentices. There are some educational features, such as photography, arts, fashions, cooking and so on. Our students took some English lessons and experienced "afternoon tea" through learning how to bake scones and make sandwiches. They also visited traditional towns in the UK, like Calke Abbey and Buxton, and they took part in a "Creative Media Workshop" to design tote bags and to edit photos. In addition, they each made a presentation about "future cars" aimed at staff working at Toyota Motor Manufacturing (UK) ltd and made group presentations for students of BSDC about their brief report of Calke Abbey and Buxton. The experiences they had at BSDC have helped to develop their interpersonal learning. They have acquired plenty of skills not only in English speaking and listening but also, they have improved their intercultural communication skills and developed their team work. For the teachers, those experiences provided great opportunities to realize the educational differences between the UK and Japan, as well as to expand our knowledge about UK culture.

4.London tour

It was a long way to London from Derbyshire and we managed to move on a tight schedule, however the London tour was one of the most fantastic moments for us all. Particularly,

Big Ben and Buckingham Palace, the most famous tourist destinations in London. The students were excited to take their memorable photos there. As time went on, we heard so many students say that they wanted to stay longer and they will go back to the UK to study in the future.

5.Conclusion

This high school delegation tour to Derbyshire was scheduled conscientiously by the staff of Toyota city. I give my thanks to everyone who supported this tour, as we made so many fantastic memories in the UK. Although many students were nervous when they first arrived in the UK, they could improve a variety of skills. The UK is adopting new cultures, while protecting and respecting their old traditions. It was quite a worthwhile experience for us to learn about UK traditions. I believe that the students will draw on these experiences in the UK to contribute to their future development. I would like to wish for their future success and express my gratitude towards having spent a fulfilling 10 days with this amazing team. Thank you very much.

ダービーシャー高校生派遣事業資料

ダービーシャー高校生派遣事業

0	年 度	学 生		計
		男	女	PI
1	平成 26 年 (2014 年) 度	4	1 2	1 6
2	平成 27 年(2015 年)度	3	1 3	1 6
3	平成 28 年 (2016 年) 度	4	1 2	1 6
4	平成 29 年(2017 年)度	5	1 0	1 5
5	平成 30 年 (2018 年) 度	2	1 3	1 5
(6)	平成 31 年(2019 年)度	(8)	(8)	(16)
		新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、 派遣中止(事前研修等の準備は実施したが、出 発前に派遣中止を判断)		
_	令和2年(2020年)度	新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、 派遣中止		
_	令和3年(2021年)度	4	1 1	1 5
		派遣代替事業として BSDC の学生を含む英国 在住者とのオンライン交流事業を実施		
6	令和4年(2022年)度	6	1 0	1 6
7	令和5年(2023年)度	5	1 0	1 5
	計(平成 31 年度含む)	4 1	9 9	140



Golden Days Abroad in Derbyshire ~ 姉妹都市ダービーシャーを訪ねて ~ 2024

第7回ダービーシャー高校生派遣帰国報告書

編集・発行 豊田市 生涯活躍部 国際まちづくり推進課 〒471-8501 豊田市西町 3-60 TeL0565-34-6963 e-mail: kokusai@city.toyota.aichi.jp